2007年 夏モデル

B5FJ-3401-02

FMV BIBLO

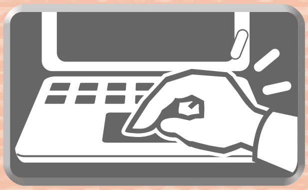
MG70W/V, MG70W, MG70WN, MG50W, MG50WN

FMV取扱ガイド

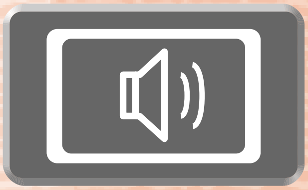
●2章で説明している主な内容



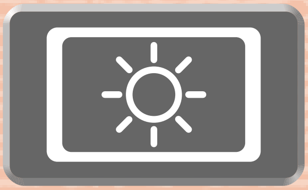
電源の入れ方／切り方



フラットポイント



音量調節



明るさ調節



ワンセグの準備
（ワンセグチューナー搭載機種のみ）



指紋認証



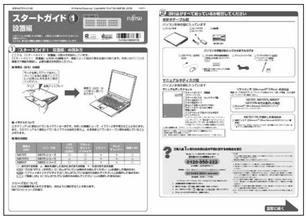
無線LAN

FUJITSU

マニュアルのご案内

冊子のマニュアル

スタートガイド（1 設置編　2 セットアップ編）

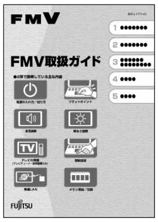




使い始めるまでの準備はこれでバッチリ

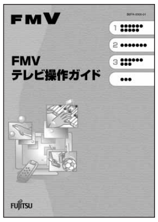
- ●『スタートガイド1　設置編』
- ●『スタートガイド2　セットアップ編』

FMV取扱ガイド



- ●各部の名称と働き
- ●パソコンの取り扱い
  - ・電源の入れ方/切り方
  - ・音量の調節
  - ・輝度の調節　など
- ●周辺機器の設置/設定/増設
- ●お手入れ
- ●仕様一覧

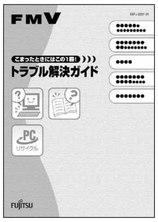
FMVテレビ操作ガイド



テレビチューナー内蔵機種に添付

- ●テレビについて
  - ・テレビの見かた
  - ・録画のしかた
  - ・保存のしかた
- ●テレビなどに関するQ&A

トラブル解決ガイド



- ●マイリカバリ
- ●バックアップ
- ●トラブル解決Q&A
- ●リカバリ（ご購入時の状態に戻す）
- ●廃棄・リサイクル

サポート&サービスのご案内



- ●ユーザー登録・特典
- ●AzbyClubのご案内
- ●困ったときは
- ●故障かな？ と思ったときは
- ●お問い合わせ先
- ●操作指導サービス
- ●お問い合わせ票/修理依頼票

この他にも、マニュアルや重要なお知らせなどの紙、冊子類があります。

画面で見るマニュアル

説明している主な内容

- ●パソコンの基本
- ●セキュリティ対策
- ●インターネット／Eメール
- ●ＦＭＶ使いこなし事例集
- ●パソコン本体の取り扱い
- ●周辺機器の接続
- ●添付ソフトウェア一覧
- ●困ったときのQ&A

※この他にも、役に立つ情報が盛りだくさんです。

テクニカルコミュニケーター協会が定める「画面で見るマニュアル標準マーク」です。



画面で見るマニュアルの始め方

（スタート）→「すべてのプログラム」→「ＦＭＶ画面で見るマニュアル」の順にクリック

参照の探し方

冊子のマニュアルの本文内に、≫「＊＊＊＊＊＊（文書番号）」とある場合は、『画面で見るマニュアル』で検索してご覧ください。

参照

文書番号：≫の横にある6桁の数字

▼ Windows の画面について

『画面で見るマニュアル』 ≫「920010」で検索

→「Windows の画面と各部の名称」

文書番号（6桁の数字）を入力して「検索する」をクリック



❶ 文書番号（6桁の数字）を入力

❷「検索する」をクリック

➡ **文書番号の内容が表示**



「目次」、「検索」、「索引」など、他にもいろいろな探し方があります。

『画面で見るマニュアル』について詳しくは、画面右上の ? 使い方 をクリックしてください。

目次

安全にお使いいただくために

本製品には『安心してお使いいただくために』というマニュアルが添付されています。本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
お使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

このマニュアルの表記について

画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、画面およびイラストが若干異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
⃠	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
••▶	参照先を記述しています。
	冊子のマニュアルを表しています。
	画面で見るマニュアルを表しています。 （起動方法について、このマニュアルの巻頭でご案内しています。）
	CD-ROM/DVD-ROM を表しています。

パソコンの電源状態について

このマニュアルではパソコンの電源を入れたときの状態を、それぞれ次のように表記しています。

パソコンの状態	このマニュアルでの表記
Windows Vista Home Premiumが起動している状態。	Windows が起動しているとき

製品などの呼び方について

このマニュアルでは製品名称などを、次のように略して表記しています。

製品名称	このマニュアルでの表記
Windows Vista™ Home Premium	Windows または Windows Vista または Windows Vista Home Premium
Windows Vista™ Ultimate	Windows または Windows Vista または Windows Vista Ultimate
Windows® Internet Explorer® 7	Internet Explorer 7 または Internet Explorer
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法
スーパーマルチドライブ	CD/DVD ドライブ
ＦＭＶ 画面で見るマニュアル V1.1	画面で見るマニュアル
xD-Picture Card™	xD- ピクチャーカード

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Aero、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、インテル Core および Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。
xD-Picture Card™、xD- ピクチャーカード ™ は富士写真フイルム株式会社の商標です。
「メモリースティック」、「メモリースティック PRO」、「メモリースティック Duo」、「メモリースティック PRO Duo」、「マジックゲート」および は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。
SD ロゴおよび SDHC ロゴは商標です。
その他の各製品名は、各社の商標または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

ドルビー、DOLBY、ダブル D 記号、AC-3 およびプロロジックはドルビーラボラトリーズの商標です。

1

第 1 章

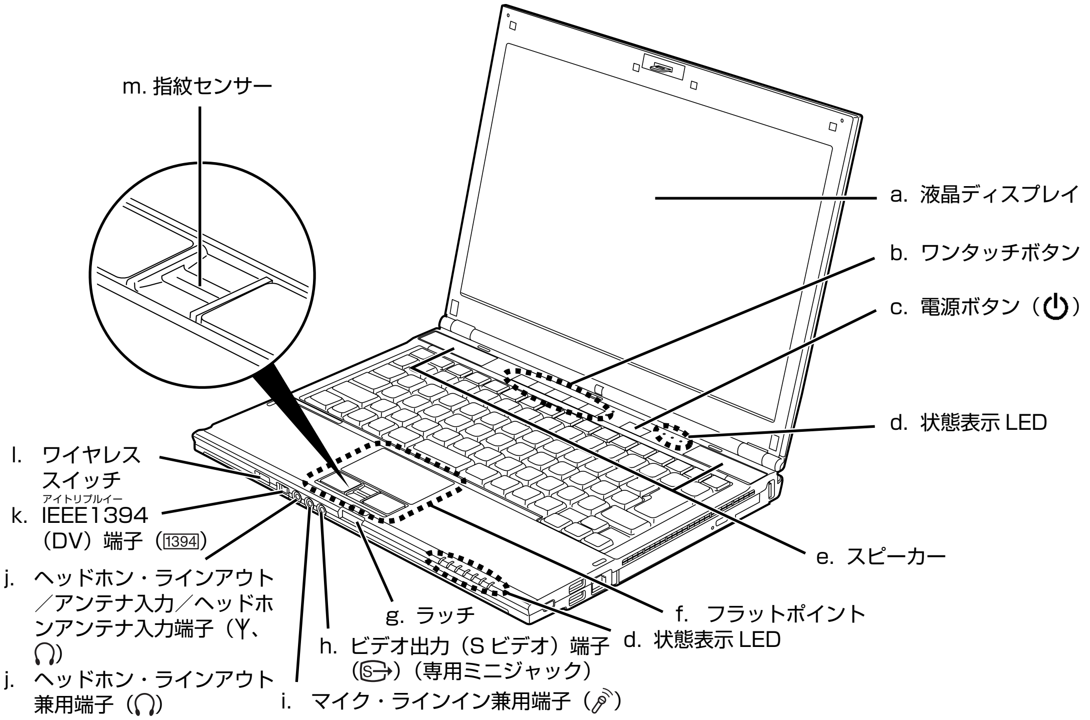
各部の名称と働き

パソコンの各部の名称と働きについて説明しています。
ここでは、代表的な機能を説明しています。

各部の名称と働き

1 パソコン本体前面

■MG70 シリーズの場合



a. 液晶ディスプレイ
パソコンの画面を表示します。

b. ワンタッチボタン（••▶P.41）
ソフトウェアを起動したり、DVD-VIDEO を再生したりするボタンです。

c. 電源ボタン
パソコンの電源を入れたり、スリープ／レジュームさせるためのボタンです。

d. 状態表示 LED（••▶P.18）
パソコンの状態が表示されます。

e. スピーカー
パソコンの音声が出力されます。

f. フラットポイント（••▶P.35）
マウスポインタを操作します。

g. ラッチ
液晶ディスプレイを開くときは、ラッチを押してロックを外します。

h. ビデオ出力（S ビデオ）端子（専用ミニジャック）
テレビにパソコンの映像を表示するための端子です。別売の S 端子変換ケーブルを使って、テレビの S 映像入力端子と接続します。

i. マイク・ラインイン兼用端子
市販のマイクを接続することができます（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。また、設定を変更することにより、ライン入力端子として使用することもできます。

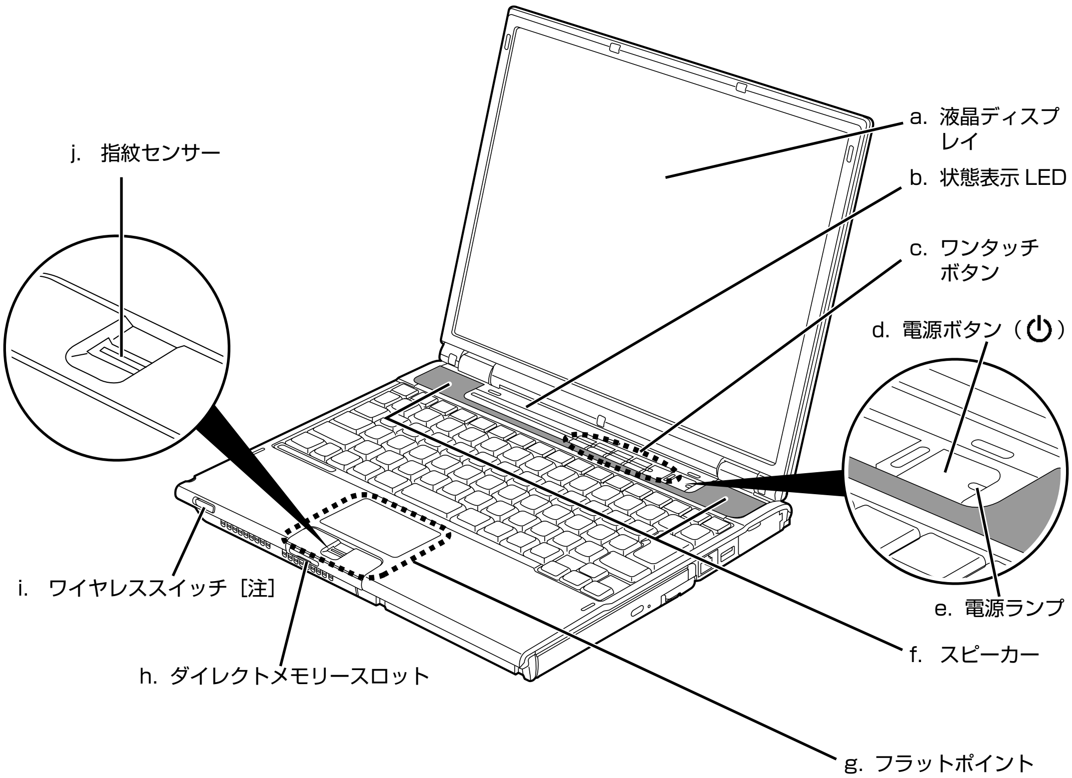
j. ヘッドホン・ラインアウト／アンテナ入力／ヘッドホンアンテナ入力端子またはヘッドホン・ラインアウト兼用端子
- ヘッドホン・ラインアウト／アンテナ入力／ヘッドホンアンテナ入力端子
ワンセグ放送を視聴する場合に、添付のヘッドホンアンテナや RF 変換ケーブルを接続します。市販のヘッドホンを接続することもできます（外径 3.5mm のミニプラグに対応)。またライン出力端子として使用することもできます。
- ヘッドホン・ラインアウト兼用端子
市販のヘッドホンを接続することができます（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。また、設定を変更することにより、ライン出力端子として使用することもできます。

k. IEEE1394（DV）端子
デジタルビデオカメラ（DVC）や IEEE1394 規格の周辺機器を接続するための端子です。

l. ワイヤレススイッチ
無線 LAN ／ Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波の発信状態を切り替えます。

m. 指紋センサー（••▶P.67）
指をスライドすることで指紋を読み取って Windows のログオンなどができるようになります。また、画面をスクロールさせることもできます。

■MG50 シリーズの場合



注：無線 LAN 搭載機種のみ。

a. 液晶ディスプレイ
パソコンの画面を表示します。

b. 状態表示 LED（**▶P.18****）**
パソコンの状態が表示されます。

c. ワンタッチボタン（**▶P.41****）**
ソフトウェアを起動したり、DVD-VIDEO を再生したりするボタンです。

d. 電源ボタン
パソコンの電源を入れたり、スリープ／レジュームさせるためのボタンです。

e. 電源ランプ
パソコンの電源が入っているときに青く点灯します。

f. スピーカー
パソコンの音声が出力されます。

g. フラットポイント（**▶P.35****）**
マウスポインタを操作します。

h. ダイレクトメモリースロット（**▶P.49****）**
SD メモリーカード、メモリースティック、xD- ピクチャーカードをセットするためのスロットです。
miniSD カードやメモリースティック Duo などは、アダプタを使用してください。

i. ワイヤレススイッチ
無線 LAN の電波の発信状態を切り替えます。

j. 指紋センサー（**▶P.67****）**
指をスライドすることで指紋を読み取ってWindowsのログオンなどができるようになります。また、画面をスクロールさせることもできます。

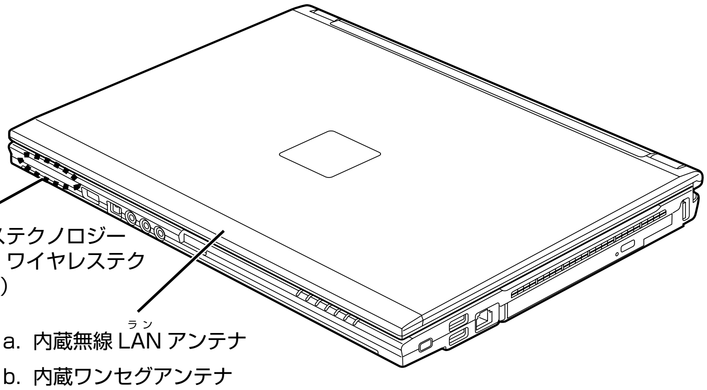
パソコン本体前面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

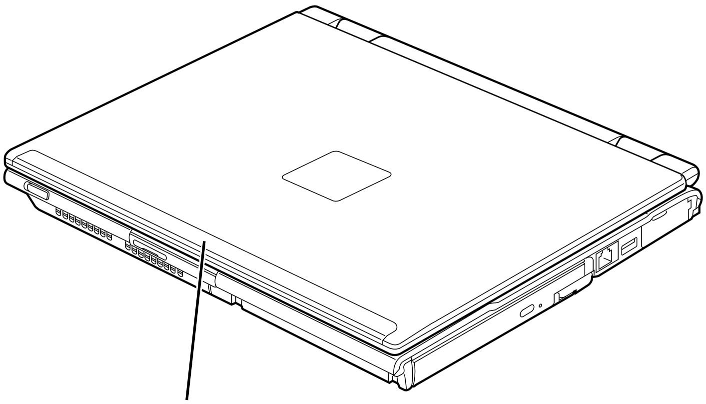
『画面で見るマニュアル』 » 「000270」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体前面」

2 パソコン本体上面

■MG70 シリーズの場合



■MG50 シリーズの場合



a. 内蔵無線 LAN アンテナ

無線 LAN 用のアンテナが内蔵されています。

b. 内蔵ワンセグアンテナ

ワンセグ放送を受信するためのアンテナです。

c. Bluetooth ワイヤレステクノロジーアンテナ

Bluetooth ワイヤレステクノロジーアンテナが内蔵されています。

パソコン本体上面の各部の名称については、次のマニュアルでも説明しています。

参照

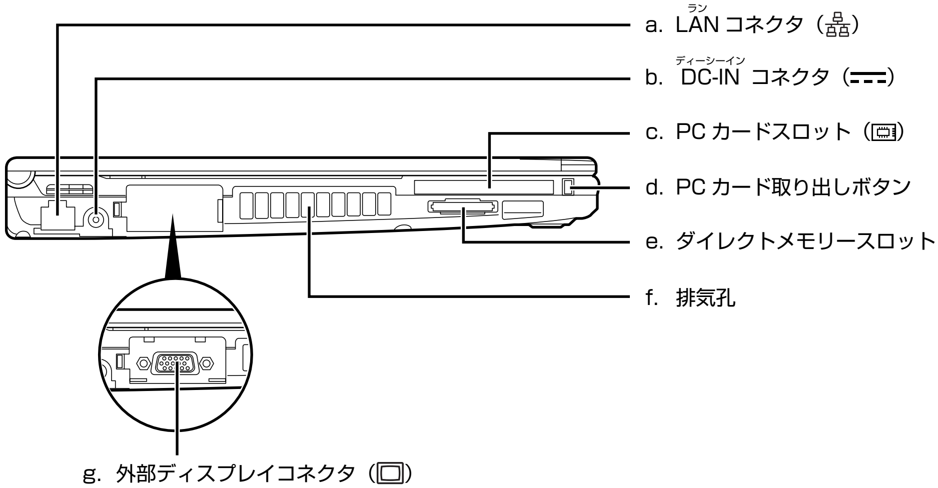
『画面で見るマニュアル』 » 「000260」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体上面」

3 各部の名称と働き

パソコン本体側面

パソコン本体左側面

■MG70 シリーズの場合



a. LAN コネクタ
インターネットやホームネットワークをするとき、別売のLAN ケーブルを使って LAN に接続するためのコネクタです。

b. DC-IN コネクタ
添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

c. PC カードスロット
PC カードをセットするためのスロットです。

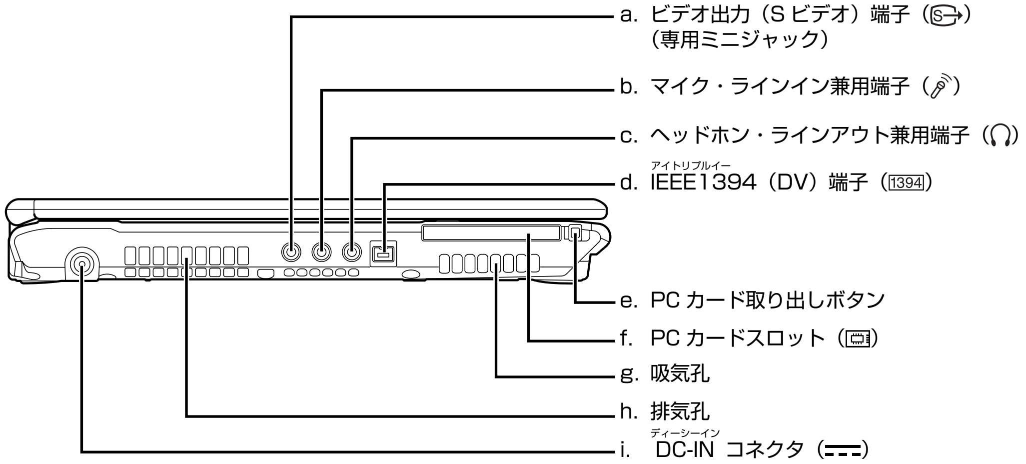
d. PC カード取り出しボタン
PC カードを取り出すときに押します。

e. ダイレクトメモリースロット（▶P.49）
SD メモリーカード、メモリースティック、xD- ピクチャーカードをセットするためのスロットです。
miniSD カードやメモリースティック Duo などは、アダプタを使用してください。

f. 排気孔
パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

g. 外部ディスプレイコネクタ
別売のアナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

■MG50 シリーズの場合



a. ビデオ出力（S ビデオ）端子（専用ミニジャック）
テレビにパソコンの映像を表示するための端子です。別売の S 端子変換ケーブルを使って、テレビの S 映像入力端子と接続します。

b. マイク・ラインイン兼用端子
市販のマイクを接続することができます（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。また、設定を変更することにより、ライン入力端子として使用することもできます。

c. ヘッドホン・ラインアウト兼用端子
市販のヘッドホンを接続することができます（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。また、設定を変更することにより、ライン出力端子として使用することもできます。

d. IEEE1394（DV）端子
デジタルビデオカメラ（DVC）や IEEE1394 規格の周辺機器を接続するための端子です。

e. PC カード取り出しボタン
PC カードを取り出すときに押します。

f. PC カードスロット
PC カードをセットするためのスロットです。

g. 吸気孔
空冷用ファンが空気を取り込むための穴です。

h. 排気孔
パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

i. DC-IN コネクタ
添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

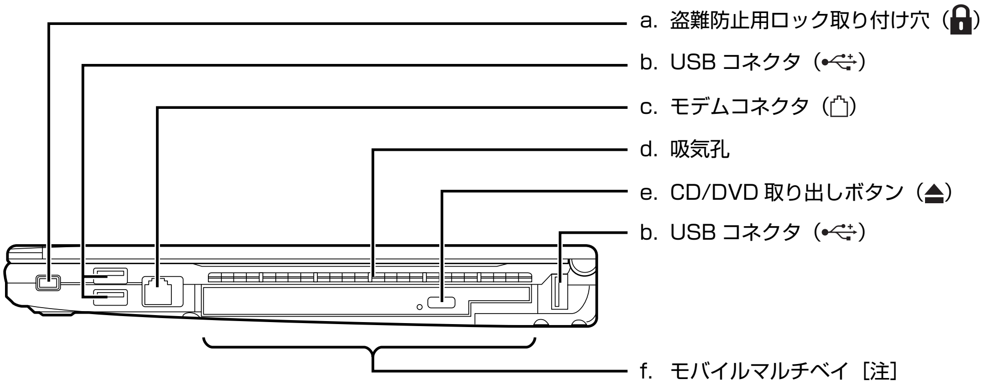
パソコン本体左側面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 »「000280」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」→「パソコン本体左側面」

パソコン本体右側面

■MG70 シリーズの場合



注：ご購入時は内蔵スーパーマルチドライブユニットが取り付けられています。

a. 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

b. USB コネクタ

デジタルカメラ、プリンタなどの USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

c. モデムコネクタ

インターネットをするとき、モジュラーケーブルを使ってパソコン本体と電話回線を接続するためのコネクタです。

d. 吸気孔

空冷用ファンが空気を取り込むための穴です。

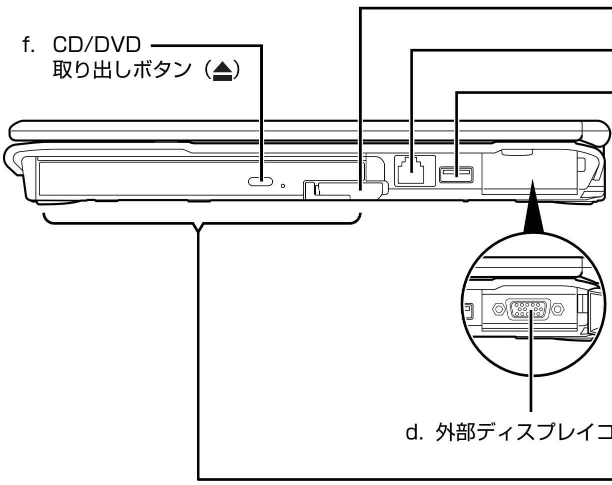
e. CD/DVD 取り出しボタン（▶P.45）

ディスクをセットしたり取り出したりするときに押します。パソコンの電源が入っているときに使えます。

f. モバイルマルチベイ（▶P.45）

ご購入時は内蔵スーパーマルチドライブユニットが取り付けられています。

■MG50 シリーズの場合



注：ご購入時は内蔵スーパーマルチドライブユニットが取り付けられています。

a. ベイユニット取り外しレバー
取り付けられているユニットを取り外す場合にレバーを起こします。

b. モデムコネクタ
インターネットをするとき、モジュラーケーブルを使ってパソコン本体と電話回線を接続するためのコネクタです。

c. USB コネクタ
デジタルカメラ、プリンタなどの USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

d. 外部ディスプレイコネクタ
別売のアナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

e. モバイルマルチベイ（▶P.45）
ご購入時は内蔵スーパーマルチドライブユニットが取り付けられています。

f. CD/DVD 取り出しボタン（▶P.45）
ディスクをセットしたり取り出したりするときに押します。パソコンの電源が入っているときに使えます。

パソコン本体右側面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

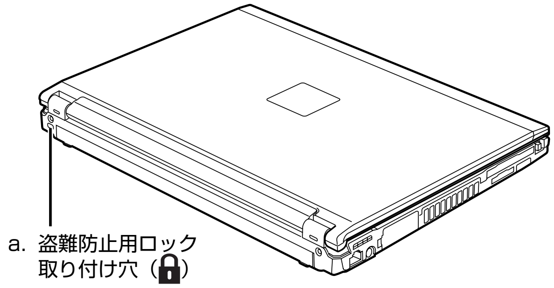
参照

『画面で見るマニュアル』 » 「000280」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」→「パソコン本体右側面」

各部の名称と働き

4 パソコン本体背面

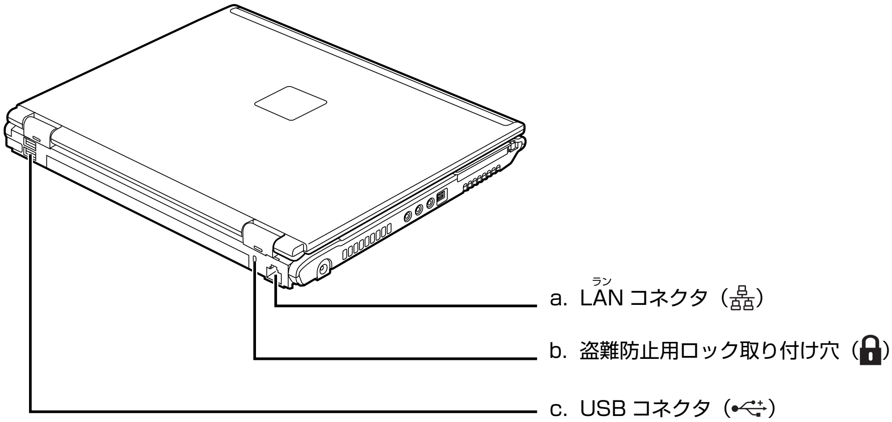
■MG70 シリーズの場合



a. 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

■MG50 シリーズの場合



a. LAN コネクタ

インターネットやホームネットワークをするとき、別売のLAN ケーブルを使ってLAN に接続するためのコネクタです。

b. 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

c. USB コネクタ

デジタルカメラ、プリンタなどの USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

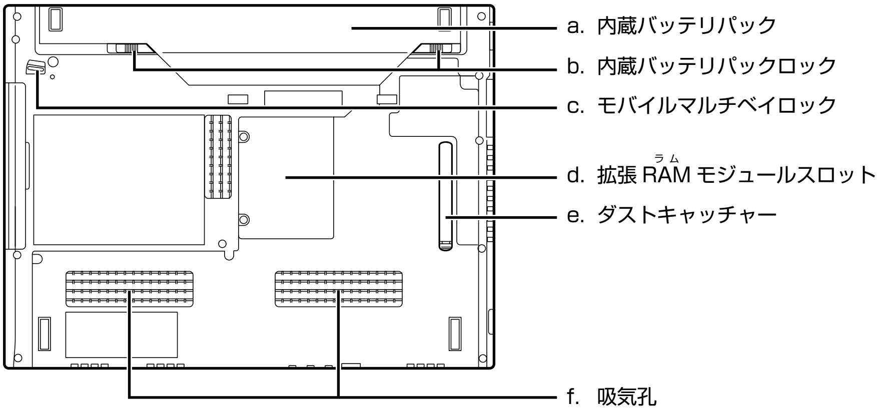
パソコン本体背面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 »「000300」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体背面」

パソコン本体下面

■MG70 シリーズの場合



a. 内蔵バッテリパック（••▶P.33）
内蔵バッテリパックが装着されています。

b. 内蔵バッテリパックロック（••▶P.33）
内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。

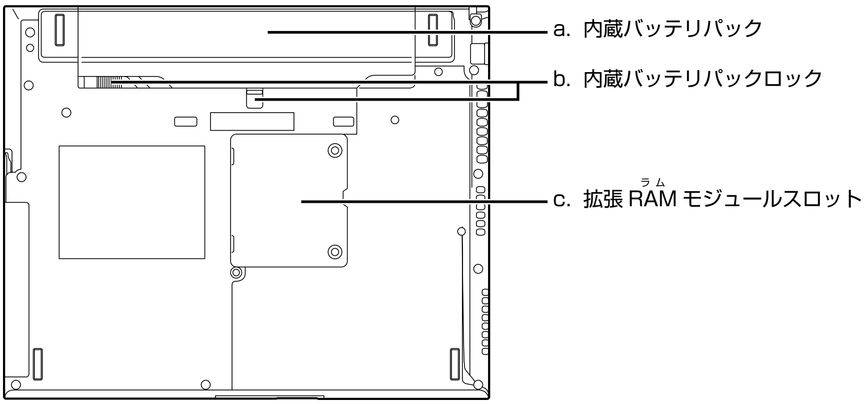
c. モバイルマルチベイロック
モバイルマルチベイを取り付け／取り外しをする場合にスライドさせます。

d. 拡張 RAM モジュールスロット（••▶P.90）
このパソコンのメモリが取り付けられています。

e. ダストキャッチャー（••▶P.98）
空冷用通風路に蓄積するほこりを取り除きやすくします。

f. 吸気孔
空冷用ファンが空気を取り込むための穴です。

■MG50 シリーズの場合



a. 内蔵バッテリパック（••▶P.33）
内蔵バッテリパックが装着されています。

b. 内蔵バッテリパックロック（••▶P.33）
内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。

c. 拡張 RAM モジュールスロット（••▶P.90）
このパソコンのメモリが取り付けられています。

パソコン本体下面の各部の名称と働きについては、次のマニュアルでも説明しています。

参照

『画面で見るマニュアル』 » 「000250」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体下面」

各部の名称と働き

6 キーボード



（イラストは機種や状況により異なります）

a. Esc キー

現在の作業を取り消して、1 つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

b. ファンクションキー

ソフトウェアごとにいろいろな機能が割り当てられます。青い刻印の機能は、【Fn】を押しながらそのキーを押して使います。

c. Num Lk キー

【Num Lk】を押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。
テンキーモードでは、イラストの「テンキーになるキー」部分がテンキー（数字を入力しやすい配列のキー）として使えるようになります。テンキーモードで入力される文字は、キーの前面に刻印されています。

d. Delete キー

カーソルの右側にある 1 文字を削除するときに使います。また、選択されているファイルやアイコン、文字列を削除します。

e. Back Space キー

カーソルの左側にある 1 文字を削除するときに使います。

f. Enter キー

入力した文字を確定するときなどに使います。
リターン（改行）キーともいいます。

g. カーソルキー

カーソルを上下左右に移動するときに使います。

h. Fn キー

この【Fn】を押しながら青い刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用することができます。

i. Shift キー

【Shift】を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

j. Caps Lock キー

【Shift】を押しながら【Caps Lock 英数】を押すと、英大文字固定モードになります。もう 1 度押すと解除されます。

k. 半角／全角キー

文字を入力するときに、半角と全角を切り替えます。全角にすると、日本語入力ができます。

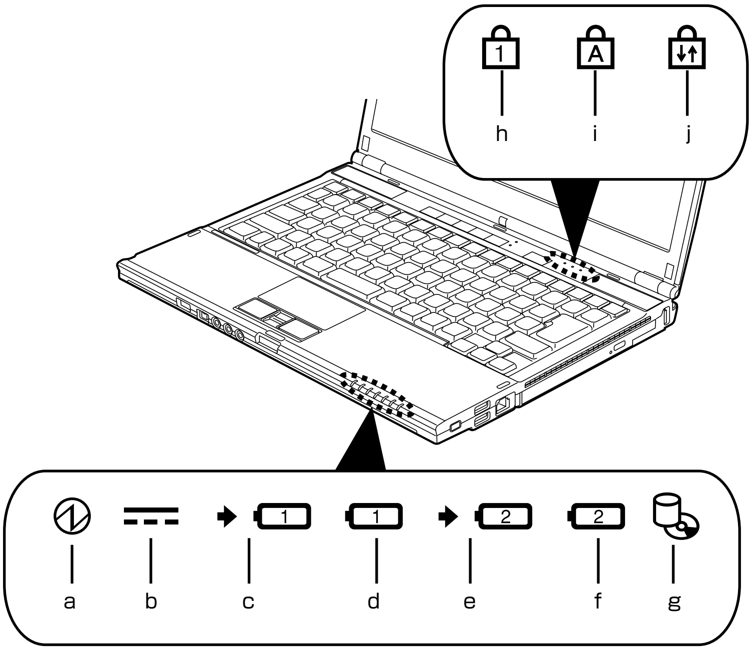
その他のキーや詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 » 「000220」で検索
→「各部の名称と働き：キーボード」

状態表示 LED

■MG70 シリーズの場合



a. 電源ランプ（ ）
パソコンの電源が入っているときに青く点灯します。

b. AC アダプタランプ（ ）
AC アダプタから電源が供給されているときに点灯します。

c. 内蔵バッテリパック充電ランプ（ 1）
パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリパックの充電状態を表示します。

d. 内蔵バッテリパック残量ランプ（ 1）
内蔵バッテリパックの残量を表示します。

e. 増設用内蔵バッテリユニット充電ランプ（ 2）
パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、増設用内蔵バッテリユニットの充電状態を表示します。

f. 増設用内蔵バッテリユニット残量ランプ（ 2）
増設用内蔵バッテリユニットの残量を表示します。
増設用内蔵バッテリユニットが装着されていると点灯します。

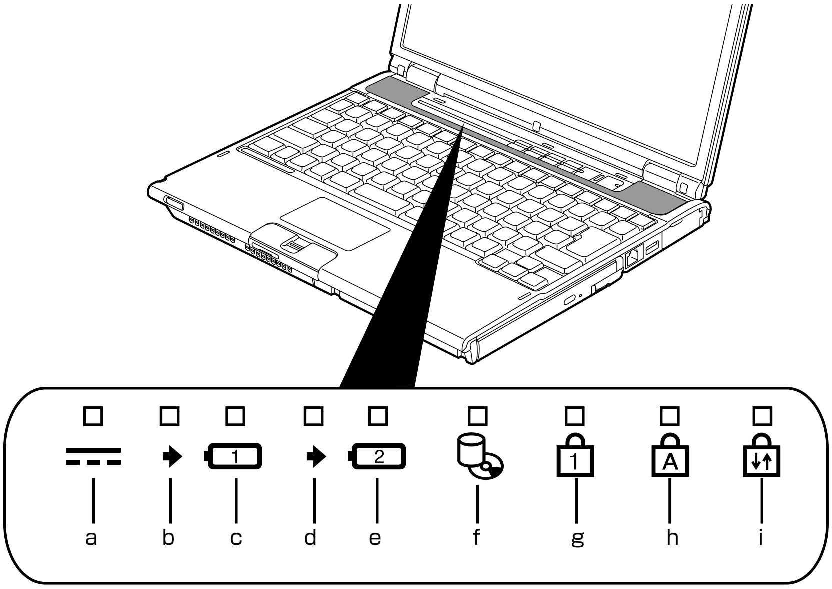
g. ハードディスク／ CD アクセスランプ（ ）
内蔵ハードディスクやCDにアクセスしているときに点灯します。

h. Num Lock（ニューメリカルロック）ランプ（ 1）
キーボードがテンキーモードのときに点灯します。
【Num Lk】キー（••▶P.17）

i. Caps Lock（キャプスロック）ランプ（ A）
英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。
【Caps Lock】キー（••▶P.17）

j. Scroll Lock（スクロールロック）ランプ（ ）
画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。
【Fn】を押しながら【Num Lk】を押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

■MG50 シリーズの場合



（イラストは機種や状況により異なります）

a. AC アダプタランプ（⎓）
AC アダプタから電源が供給されているときに点灯します。

b. 内蔵バッテリパック充電ランプ（➡）
パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリパックの充電状態を表示します。

c. 内蔵バッテリパック残量ランプ（1）
内蔵バッテリパックの残量を表示します。

d. 増設用内蔵バッテリユニット充電ランプ（➡）
パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、増設用内蔵バッテリユニットの充電状態を表示します。

e. 増設用内蔵バッテリユニット残量ランプ（2）
増設用内蔵バッテリユニットの残量を表示します。
増設用内蔵バッテリユニットが装着されていると点灯します。

f. ハードディスク／CD アクセスランプ（）
内蔵ハードディスクやCDにアクセスしているときに点灯します。

g. Num Lock（ニューメリカルロック）ランプ（1）
キーボードがテンキーモードのときに点灯します。
【Num Lk】キー（••▶P.17）

h. Caps Lock（キャプスロック）ランプ（A）
英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。
【Caps Lock】キー（••▶P.17）

i. Scroll Lock（スクロールロック）ランプ（）
画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。
【Fn】を押しながら【Num Lk】を押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

状態表示 LED の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 »「000230」で検索
→「各部の名称と働き：状態表示 LED」

Memo

2

第２章

パソコンの取り扱い

最初に確認していただきたいことと、使用上の注意事項などを説明しています。

電源を入れる／切る

電源の入れ方と切り方はとても重要です。正しい方法を覚えてください。

AC アダプタを接続する

AC アダプタは差し込み口の形状をよく確認して、奥までしっかりと差し込んでください。

警告

・雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。
落雷による感電、火災の原因となります。

・AC アダプタは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体が故障する原因となります。

POINT

AC アダプタは熱くなる場合があります

パソコンの使用中は、AC アダプタが熱くなることがありますが、異常ではありません。

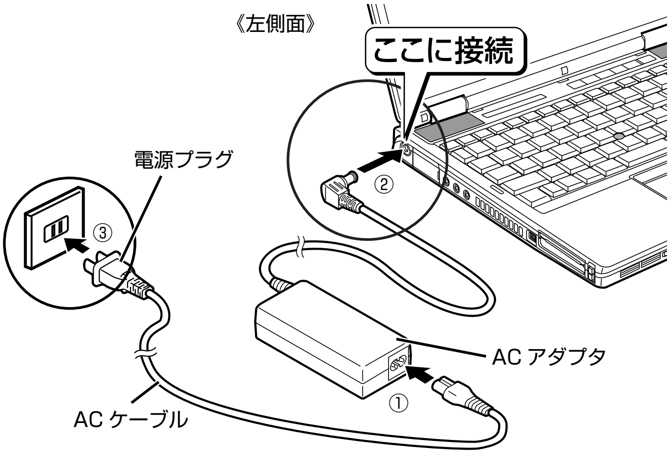
1 **液晶ディスプレイを開きます。**

・MG70 シリーズの場合
ラッチを押してロックを外し、パソコン本体と液晶ディスプレイの両方に手を添えて開けてください。

・MG50 シリーズの場合
パソコン本体と液晶ディスプレイの両方に手を添えて開けてください。

2 AC アダプタを取り付けます。

① AC アダプタに AC ケーブルを接続し、②パソコン本体の DC-IN コネクタに接続します。③その後、電源プラグをコンセントに接続します。
正しく接続すると、状態表示 LED の AC アダプタランプ ⎓ が点灯します。



（イラストは機種や状況により異なります）

2

電源を入れる

ここでは電源の入れ方のうち Windows を起動する方法を説明しています。

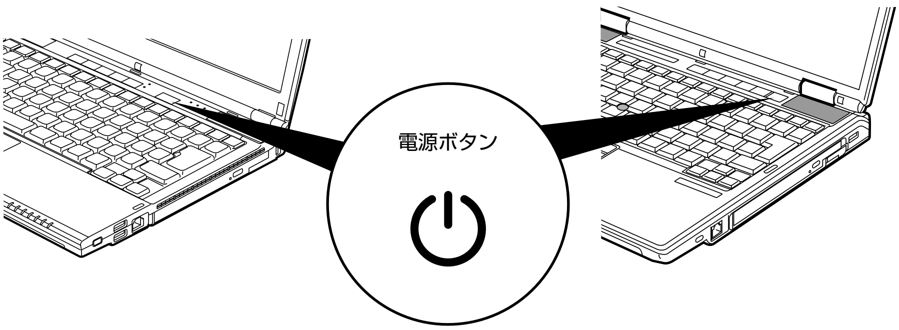
重要

電源を入れるときの注意

- 電源を入れて本製品が起動するまでは、むやみにキーボードやフラットポイントに触らないでください。正常に起動できなくなる場合があります。
- パソコンを長時間お使いになる場合は、バッテリ切れによるデータ消失などを防ぐため、必ず AC アダプタを取り付けてください。

1 電源ボタン（⏻）を押します。

■MG70 シリーズの場合　　■MG50 シリーズの場合



（イラストは機種や状況により異なります）

電源ランプが点灯し、画面にさまざまな文字などが表示されます。

■Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、手順 4 に進んでください。

■Windows のログオンパスワードを設定している場合や、指紋を登録している場合は、手順 2 に進んでください。

重要

電源ボタンは短く押してください

電源ボタンは、4 秒以上押し続けるとパソコンの電源が切れてしまいます。データが失われることもありますので、ご注意ください。

2 お使いのユーザー名をクリックします。

指紋を登録している場合は、指紋センサーに指をスライドさせると、手順 4 の画面が表示されます。



3 Windows のログオンパスワードを入力し、➡をクリックします。



次のページへ

4 このような画面が表示されたことを確認します。



（画面は機種や状況により異なります）

POINT

Windows が起動しない場合

バッテリ残量が少ないと電源を入れても Windows が起動しないことがあります。次の点を確認してください。

・ AC アダプタを取り付けているとき
  AC アダプタが正しく取り付けられているかを確認してください。
  「AC アダプタを接続する」（••▶P.22）
・ バッテリで使うとき
  バッテリの残量が充分にあるかを確認し、足りなければ AC アダプタを取り付けてください。

以上の点を確認しても Windows が起動しない場合は、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『トラブル解決ガイド』
→「Q&A 集」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「起動／終了」

電源を切る

ここでは電源の切り方のうち Windows を終了する方法を説明しています。
必ず、次の手順で Windows の終了処理を行ってください。Windows の終了処理を行うと、自動的に電源が切れます。
このパソコンを使わないときは、Windows を終了せずに「待機状態（スリープ）」にしておくこともできます。スリープにする方法については、「パソコンを待機状態にする／復帰させる」（••▶P.29）をご覧ください。

2

1 **それまで行っていた作業を終了します。**

ソフトウェアを起動している場合は、作業中のデータを保存し、ソフトウェアを終了します。例えばワープロソフトを使って文書を作成中の場合は、文書データを保存し、ワープロソフトを終了します。

POINT

ソフトウェアを終了しなかった場合

ソフトウェアを起動したままこれ以降の操作を進めると、途中で作業中のデータを保存するか確認するメッセージが表示されることがあります。誤操作の原因となるので、あらかじめデータを保存した後、ソフトウェアを終了してください。

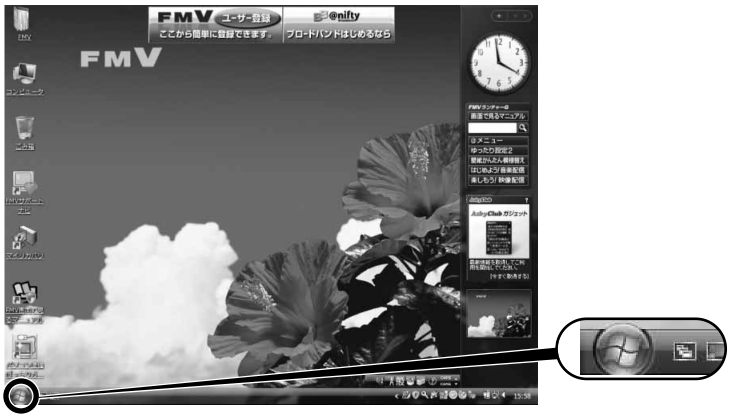
2 **CD や DVD などがセットされていたら、CD/DVD 取り出しボタンを押して取り出します。**

POINT

CD や DVD などを入れたままだと

パソコンの電源を切ってしまうと、CD や DVD などは取り出せません。

3 **（スタート）をクリックします。**



（これ以降の画面は、機種や状況により異なります）

次のページへ

POINT

パソコンが動かなくなり操作できない場合

パソコンが動かなくなり（フラットポイントやキーボードが操作できないなど）、電源を切る操作ができないときは、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『トラブル解決ガイド』
→「Q&A 集」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「起動／終了」

それでも電源が切れないときは、パソコン本体前面の電源ボタンを 4 秒以上押して、強制的に電源を切ってください。

4 ▶をクリックします。



5 「シャットダウン」をクリックします。



しばらくすると Windows が終了し、パソコンの電源が自動的に切れます。

パソコンを待機状態にする／復帰させる

このパソコンを使わないときは、パソコンの電源を切らずに待機状態にしておくと、次にパソコンを使うときにすぐに使い始めることができます。
待機状態にはスリープと休止状態があります。ここでは、パソコンをスリープにする方法と、スリープから復帰する方法について説明します。

POINT

次の場合はパソコンの電源を切ってください

・パソコンを長期間使わないとき
・パソコンの動作が遅くなったり、正常に動作しなくなったとき

上記のような場合はいったんパソコンの電源を切り、再度電源を入れ直してください。
電源の切り方については、「電源を切る」（••▶P.27）をご覧ください。

パソコンをスリープする

1 （スタート）→ をクリックします。

パソコンがスリープします。スリープ中は、電源ボタンの周囲が青く点滅します。



スリープから復帰する

1 電源ボタン（⏻）を押します。

パソコンがスリープから復帰（レジューム）します。電源ボタンは 4 秒以上押し続けないでください。パソコンの電源が切れてしまいます。

POINT

スリープについて

パソコンの電源を切らずに、作業中のデータなどをメモリに保存して、パソコンを待機状態にすることです。スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。ご購入時の設定では、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリの残量が少なくなると、データなどの保存先をメモリからハードディスクに切り替えて、パソコンの電源を切るようになっています。

スリープや休止状態については、次のマニュアルもご覧ください。

参照

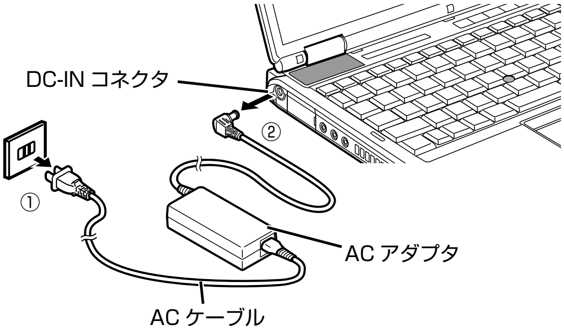
『画面で見るマニュアル』 » 「000410」で検索
→「省電力機能を使う」

AC アダプタを取り外す

パソコン本体を持ち運ぶときや、周辺機器の取り付け・取り外しをするとき、パソコンを長時間使わないときは、必ず、AC アダプタを取り外します。

1 AC アダプタを取り外します。

① AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜き、② AC アダプタを DC-IN コネクタから取り外します。



（イラストは機種や状況により異なります）

重要

パソコン使用中に AC アダプタを取り外す場合

パソコンを使っている途中で AC アダプタを取り外し、バッテリでパソコンを使うときは、バッテリが充電されているか確認してください。特にご購入時にはバッテリが充電されていない場合があるので、ご注意ください。

AC アダプタを取り外した状態でのご注意

パソコンは電源を切った状態でも少量の電力を消費しています。そのため、AC アダプタを取り外した状態ではバッテリの残量が少しずつ減っていきます。
長時間 AC アダプタを取り外していた場合は、お使いになる前に AC アダプタを接続してから電源を入れてください。バッテリの残量を減らさないためには、AC アダプタを接続しておくか、長期間パソコンを使用しない場合には内蔵バッテリを外してください。

2 液晶ディスプレイを閉じます。

液晶ディスプレイは静かに閉じてください。

重要

液晶ディスプレイを閉じる場合

- 液晶ディスプレイは静かに閉じてください。液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。
- 液晶ディスプレイの間に文房具などを挟まないようにしてください。

画面で見るマニュアル　添付の冊子マニュアル ▶▶▶ このマニュアルの巻頭でご案内しています。

バッテリで使う

バッテリで使うには

このパソコンは、バッテリを使って動作させることができます。
ここでは、バッテリの充電方法やバッテリでパソコンを使う方法について説明しています。

充電してバッテリで使う

1 **パソコンに AC アダプタを接続します。**

AC アダプタを接続すると充電が始まります。
内蔵バッテリパックの充電ランプ（ , または）は次のように表示されます。

グリーン点灯	充電終了
オレンジ点灯	充電中

2 **バッテリが満充電になったら、AC アダプタを取り外します。**

バッテリ充電ランプがオレンジ点灯から消灯に変わります。

3 **電源ボタンを押します。**

バッテリの残量を確認する

バッテリ残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LED のバッテリ残量ランプで確認できます。
バッテリ残量ランプ（）は、パソコンが動作状態またはバッテリ充電中のときは点灯し、スリープのときは点滅します。

グリーン点灯	バッテリ残量　100 ～ 50%
オレンジ点灯	バッテリ残量　49 ～ 13%
レッド点灯	バッテリ残量　12%以下
オレンジ点滅	バッテリ残量計測中（内蔵バッテリパック装着後 4 秒間）
レッド点滅	バッテリ異常時
消灯	内蔵バッテリパック未接続時

重要

バッテリ異常の表示

- バッテリ温度アラームの表示（バッテリ充電ランプ）
  バッテリ充電ランプのオレンジ点滅は、内蔵バッテリパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったときに、バッテリの保護機能が働いて充電を停止していることを表しています。しばらくして内蔵バッテリパックの温度が平常に戻ると、オレンジ点灯になり充電を再開します。
- バッテリの異常表示（バッテリ残量ランプ）
  バッテリ残量ランプが、早い間隔でレッド点滅する場合は、バッテリが正しく充電できないことを示します。

LOW バッテリ状態

バッテリが LOW バッテリ状態になると、状態表示 LED のバッテリ残量ランプがレッド点灯／点滅します。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリを充電してください。

バッテリについては、次のマニュアルをご覧ください。

参照

▼ バッテリの注意事項について

▼ バッテリの異常表示がされた場合

『画面で見るマニュアル』 » 「000590」で検索
→「バッテリで使う」

内蔵バッテリパックを交換する

バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。
使用できるバッテリについては、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 »「000560」で検索
→「内蔵バッテリパックを交換する」→「必要なものを用意する」

警告

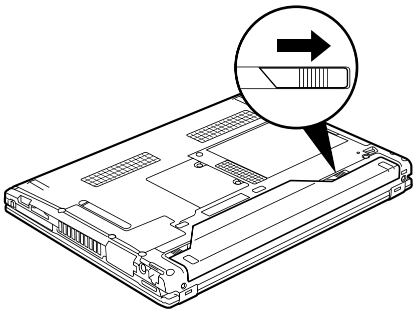
・バッテリパックの交換を行う場合は、パソコン本体の電源を必ず切り AC アダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリパックのコネクタに触れないでください。
感電や故障の原因となります。

1 **パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。**

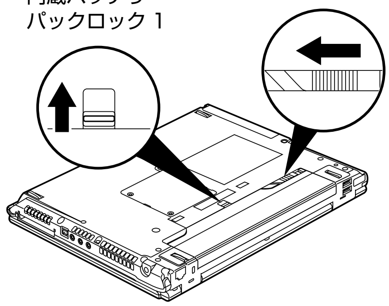
2 **液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。**
液晶ディスプレイを閉じる場合は、文房具などを挟まないようにして静かに閉じてください。

3 **内蔵バッテリパックロックを解除します。**
MG70 シリーズの場合は、内蔵バッテリパックロックを矢印の方向にスライドさせます。
MG50 シリーズの場合は、内蔵バッテリパックロック 1 を矢印の方向にスライドさせながら、内蔵バッテリパックロック 2 を矢印の方向にスライドさせます。

■MG70 シリーズの場合



■MG50 シリーズの場合

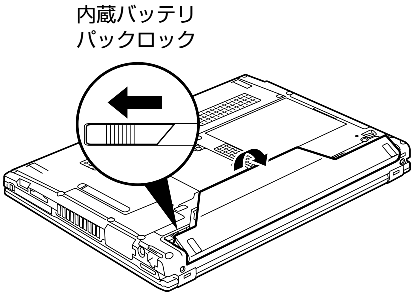


次のページへ

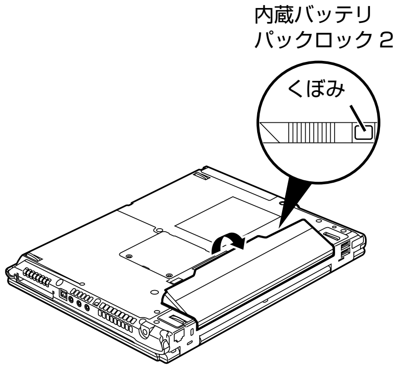
4 内蔵バッテリパックを取り外します。

MG70 シリーズの場合は、内蔵バッテリパックロックを矢印の方向にスライドさせながら、くぼみに指をかけて内蔵バッテリパックロックを取り外します。
MG50 シリーズの場合は、内蔵バッテリパックロック 2 のくぼみに指をかけて内蔵バッテリパックを取り外します。

■MG70 シリーズの場合



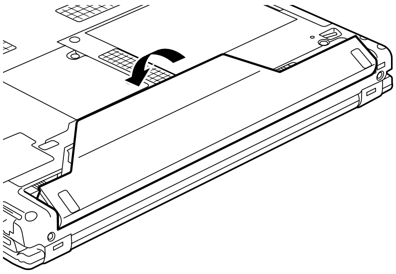
■MG50 シリーズの場合



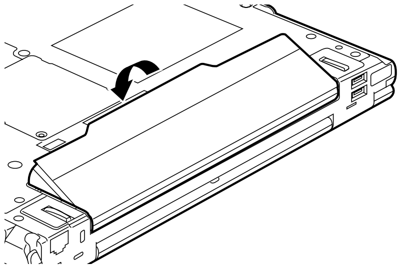
5 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

新しい内蔵バッテリパックを斜め上から差し込み、カチッと音がするまでしっかりはめこみます。

■MG70 シリーズの場合



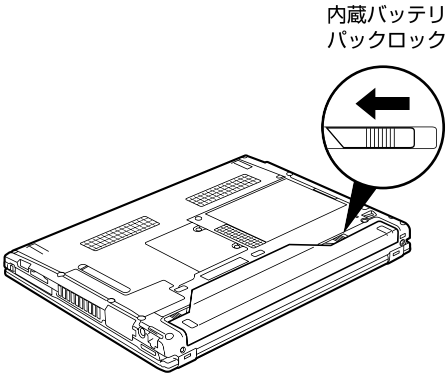
■MG50 シリーズの場合



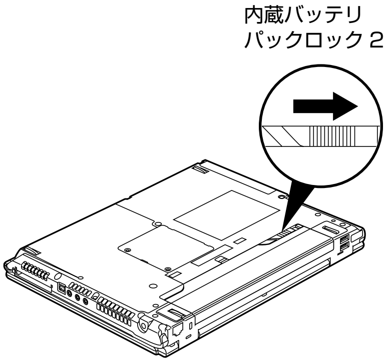
6 ロックします。

内蔵バッテリパックロック 2 を矢印の方向にスライドさせて、ロックします。

■MG70 シリーズの場合



■MG50 シリーズの場合

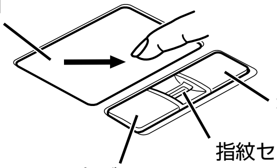


画面で見るマニュアル　添付の冊子マニュアル ▶▶▶ このマニュアルの巻頭でご案内しています。

3 フラットポイントを使う

フラットポイントについて

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインタを動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、操作面とその手前にある 2 つのボタンで構成されています。
操作面は、マウスでいえばボール部分の機能を持ち、指先で上下左右になぞることにより、画面上のマウスポインタを移動させます。
左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はソフトウェアにより異なります。
フラットポイントの操作面の上下に一つずつある左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はソフトウェアにより異なります。
また、中央にある指紋センサーを使って、簡単に画面を上下にスクロールできます。



（イラストは機種や状況により異なります）

POINT

フラットポイントをお使いになるときは、次の点にご注意ください

- フラットポイントは表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合は、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- お使いになるソフトウェアによっては、指紋センサーを使った画面のスクロールができない場合があります。

USB マウスを使用することもできます

参照

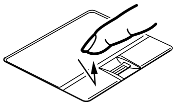
▼ マウスの接続方法について
『画面で見るマニュアル』 » 「000680」で検索
→「マウスを接続する」
▼ マウスについて
『画面で見るマニュアル』 » 「000780」で検索
→「マウスを使う」

フラットポイントの使い方

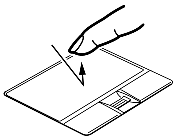
フラットポイントには上下にボタンがあります。ここでは、下のボタンのみを説明します。上のボタンも下のボタンと同様の働きをします。

■クリック／タップ

左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すか、操作面を1回タップ(軽くたたく)することです。
また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。



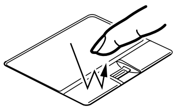
または



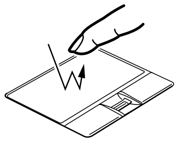
(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

■ダブルクリック／ダブルタップ

左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すか、操作面を 2 回連続してタップすることです。

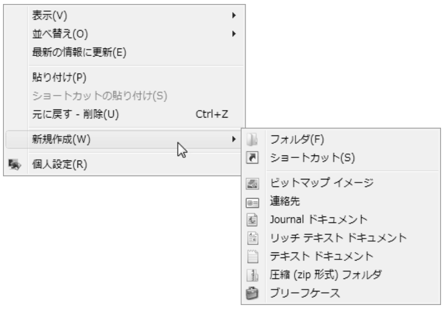


または



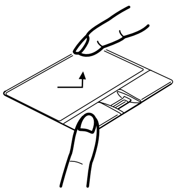
■ポイント

マウスポインタをメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されます。また、ポイントしたメニューの下にサブメニューがある場合（メニューの右端に ▶ が表示されています)、サブメニューが表示されます。

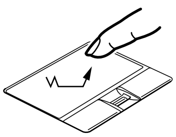


■ドラッグ

左ボタンを押しながら希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。
左ボタンを使わない場合は、操作面を素早く 2 回タップし、2 回目のタップのときに指を操作面上から離さないで、希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。



または



■スクロール

指紋センサー上で指先を前後にスライドすると、画面の表示を上下にスクロールできます。

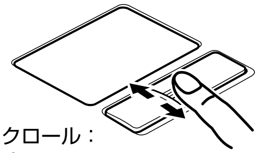
1 スクロールしたい領域（ウィンドウの中）をクリックします。



（画面は機種や状況により異なります）

2 指紋センサー上で指先を前後にスライドします。

ウィンドウの中の表示が上下にスクロールします。



POINT

指紋センサーで画面をスクロールするときのご注意

お使いになるソフトウェアによっては、指紋センサーを使った画面のスクロールができない場合があります。

フラットポイントについては、次のマニュアルもご覧ください。

参照

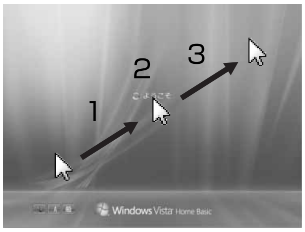
▼ フラットポイントについて

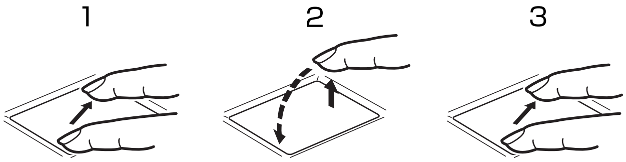
『画面で見るマニュアル』 » 「000640」で検索

→「フラットポイントを使う」

指が操作面の端まできたら

いったん操作面から指を離して、もう一度別の位置からなぞってください。指を離してもマウスポインタは動きません。





指を離している間はマウス
ポインタは動きません。

うまくクリックできない場合

なるべくボタンの中央部分を押すようにしてください。また、ボタンを押すときや離すときに、 の位置がずれないように、気を付けてください。

パソコンの取り扱い

4 音量を調節する

スピーカーやヘッドホンの音量は、キーボードなどで調節できます。

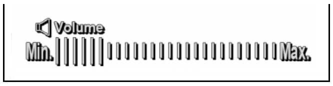
重要

音量の調節について

スピーカーが故障する原因となる場合があるので、音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。

1 Fn を押しながら、F8 、F9 または F3 を押します。

■音量を小さくしたい場合
Fn を押しながら、F8 を押します。
■音量を大きくしたい場合
Fn を押しながら、F9 を押します。
調節中は画面下部に音量を示すインジケータが表示されます。
■音を消したい場合
Fn を押しながら、F3 を押します。
「Mute」と表示され、画面右下の通知領域に が表示されます。
もう一度 Fn を押しながら F3 を押すと、画面下部に現在の音量を示すインジケータが表示され、音が出るようになります。



音量小 ←→ 音量大

通知領域の で音量を調節する

通知領域のアイコンでも調節できます。その他、音量調節については、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000190」で検索
→「音量を調節する」

5 液晶ディスプレイの明るさを調節する

キーボードで画面の明るさを、8 段階に変更できます。

1 明るさを設定します。

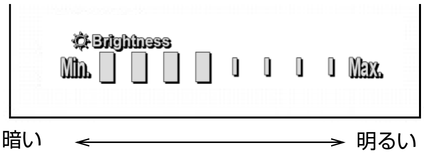
■明るくする場合

【Fn】を押しながら【F7】を押す

■暗くする場合

【Fn】を押しながら【F6】を押す

画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。



POINT

うまく調節できない場合

パソコンを再起動したり、スリープからレジュームしたり、AC アダプタの取り付けや取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。しばらくしてから、変更してください。

明るさの設定について

- キーボードで画面の明るさを設定しても、パソコンを再起動したり、スリープや休止状態から復帰したり、AC アダプタの取り付けや取り外しを行った直後は、変更前の明るさに戻ります。
- ご購入時は、AC アダプタを接続している場合は明るく、バッテリで使っている場合は少し暗くなるように設定されています。
- 明るさの設定は、AC アダプタを接続している場合と、バッテリで使っている場合とで別々に変更できます。

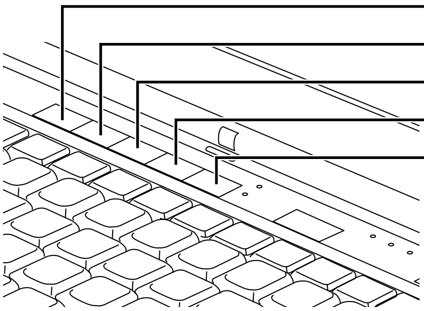
明るさの設定については、次のマニュアルもご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000180」で検索
→「液晶ディスプレイの明るさを変更する」

6 ワンタッチボタンを使う

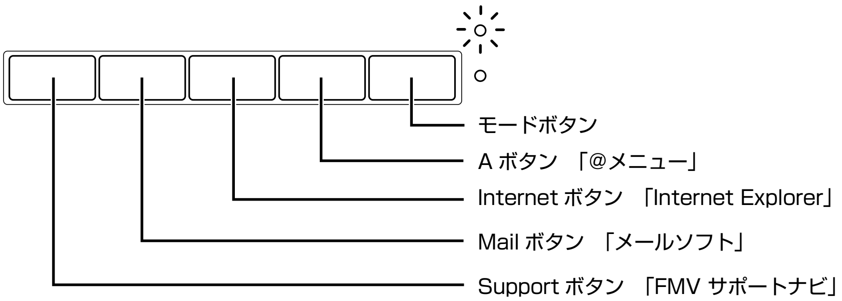
■MG70 シリーズの場合



ワンタッチボタンには、「Applicaton」モードと、「Player」モードがあります。
モードを切り替えるには、モードボタンを押します。モードボタンを押すたびに「Application」モードと「Player」モードが切り替わり、有効なモードの表示が点灯します。

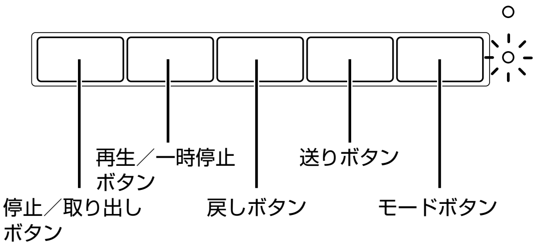
「Application（アプリケーション）」モードのとき

モードボタン横の Application が点灯します。ボタンの表示に応じて次のソフトウェアが起動します。



「Player（プレーヤー）」モードのとき

モードボタン横の Player が点灯します。DVD-VIDEO の操作ができます。

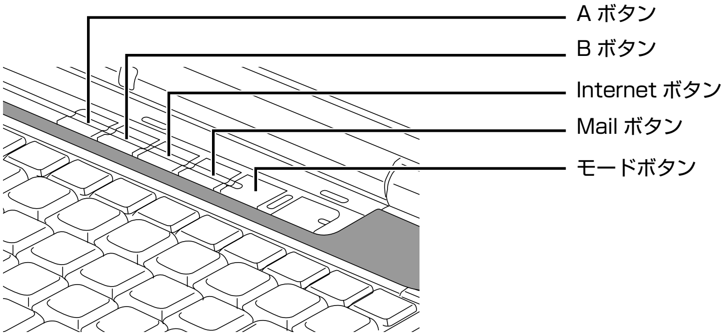


POINT

パソコンの電源が切れているときや待機状態（スリープ）のときは

パソコンの電源が切れているときやスリープのとき、モードボタン横のランプは点灯しませんが、ワンタッチボタンは「Application」モードになります。「Player」モードにはなりません。

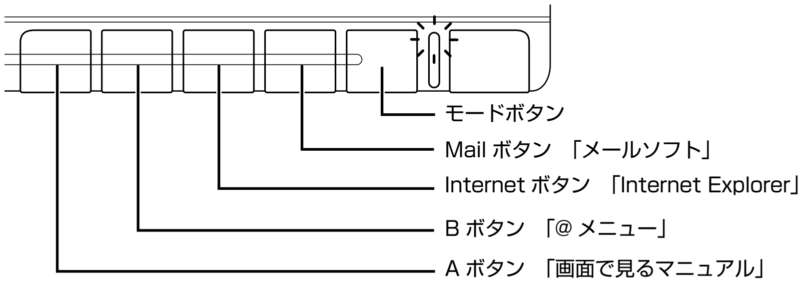
■MG50 シリーズの場合



ワンタッチボタンには、「Applicaton」モードと、「Player」モードがあります。
モードを切り替えるには、モードボタンを押します。モードボタンを押すたびに「Application」モードと「Player」モードが切り替わり、有効なモードの表示が点灯します。

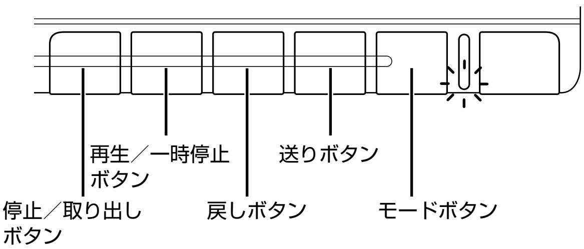
アプリケーション
「Application」モードのとき

モードボタン横の Application が点灯します。ボタンの表示に応じて次のソフトウェアが起動します。



プレーヤー
「Player」モードのとき

モードボタン横の Player が点灯します。DVD-VIDEO の操作ができます。



POINT

パソコンの電源が切れているときや待機状態（スリープ）のときは

パソコンの電源が切れているときやスリープのとき、モードボタン横のランプは点灯しませんが、ワンタッチボタンは「Application」モードになります。「Player」モードにはなりません。

参照

▼ ワンタッチボタンについて

『画面で見るマニュアル』 » 「000770」で検索
→「ワンタッチボタンを使う」

7 CD/DVD を使う

このパソコンで使えるディスク／使えないディスク

使えるディスク

このパソコンでお使いになることのできるディスクは、次のとおりです。

- **CD**
  CD-ROM、音楽 CD、フォト CD、ビデオ CD、CD-R、CD-RW
- **DVD**
  DVD-ROM、DVD-VIDEO、DVD+R、DVD+RW、DVD+R DL、DVD-R、DVD-RW、DVD-R DL、DVD-RAM［注］
  注 ：DVD-RAM をお使いになる場合には、フォーマットが必要です。

使えないディスク

次のディスクはお使いにならないでください。

- 円形以外の異形ディスク（星型やカード型などの変形ディスク）
  このパソコンは円形のディスクのみお使いになれます。
  円形以外の異形ディスクをお使いになると故障する場合があります。
  異形ディスクをお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 規格外の厚さの DVD 媒体
  DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ～ 1.5mm と規定しています。
  記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
  規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 傷またはヒビの入ったディスク
  傷またはヒビの入ったディスクをお使いになるとドライブ内部で破損する場合があります。
- カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM（Type1）
  DVD-RAM は、カートリッジ無しタイプ、またはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをお使いください。なお、カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM を、カートリッジから無理に取り出して使わないでください。

推奨ディスク

次のディスクの使用を推奨します。

下記以外のディスクをお使いの場合は、書き込み／書き換え速度が低下することがあります。また、下記以外の DVD-RW または DVD+RW をお使いの場合は、書き込みが正常に行えない場合や、再生できない場合があります。

なお、富士通サプライ品は、富士通コワーコ株式会社の取り扱い品です。
お問い合わせ先
富士通コワーコ株式会社　お客様総合センター
電話：0120-505-279
受付時間：9:00 ～ 17:30（土・日・祝日・年末年始除く）
URL：http://jp.fujitsu.com/coworco/

- **CD-R**
  太陽誘電：CDR-80WTY、CDR-80WPY、CDR-74WPY
- **CD-RW**
  富士通サプライ品：CD-RW74/0241410
  三菱化学メディア：SW74QU1、SW74EU1、SW80QU1、SW80EU1
- **DVD-R**
  太陽誘電：DR-47WTY、DR-47TY
- **DVD-R DL**
  三菱化学メディア：DHR85YP1、DHR85H1
- **DVD-RW**
  日本ビクター：VD-W47H
- **DVD-RAM**
  松下電器：LM-HC47M（4.7GB、カートリッジ無）、LM-HB47MA（4.7GB、カートリッジ有、取り出し可）、LM-HB94M（9.4GB、カートリッジ有、取り出し可）
  日立マクセル：DRM47C.1P（4.7GB、カートリッジ無）、DRMC47C.1P（4.7GB、カートリッジ有、取り出し可）、DRMC94C.1P（9.4GB、カートリッジ有、取り出し可）、DRM120C.1P A（4.7GB、カートリッジ無）、DRMC240C.1P（9.4GB、カートリッジ有、取り出し可）
- **DVD+R**
  三菱化学メディア：DTR47JP
  太陽誘電：DR+47WTY
- **DVD+R DL**
  三菱化学メディア：DTR85H1
- **DVD+RW**
  リコー：D4RWD-S1CW、D8RWD-S1CW
  三菱化学メディア：DTW47U1

参照
▼ このパソコンで使えるディスク／使えないディスクについて
『画面で見るマニュアル』 »「000050」で検索
→「このパソコンで使えるディスク／使えないディスク」

ディスクをパソコンにセットする／取り出す

ここでは、ディスクをパソコンにセット／取り出しをする方法について説明しています。
モバイルマルチベイユニットの取り外しや取り付け方法については、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000730」で検索
→「モバイルマルチベイユニットを使う」

2

ディスクをセットする

注意

・ディスクをセットまたは取り出す場合は、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

重要

ディスクをセットする場合

- CD や DVD に頻繁にアクセスしたり、DVD-VIDEO を再生したり、CD や DVD に書き込み、書き換えをしたりする場合は、パソコン本体に AC アダプタを取り付けることをお勧めします。
パソコン本体に AC アダプタを取り付ける方法については、「AC アダプタを接続する」(••▶P.22) をご覧ください。
- ディスクをセットするときは、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとはめ込んでください。
きちんとはめ込まないと、ディスクがドライブ内部で外れて、トレーやドライブの内部、およびディスクを破損する原因となることがあります。

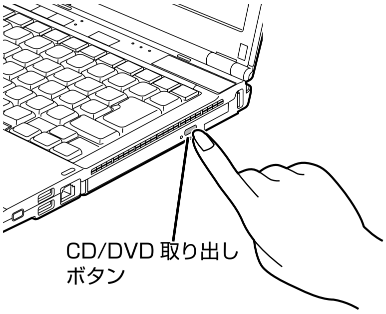
ディスクを再生する場合

ディスクはデータの読み出しなどの際に高速回転するため、使用時には振動や風切音がすることがあります。

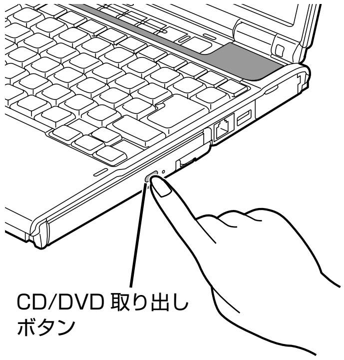
1 CD/DVD 取り出しボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。
電源が切れている場合は、電源を入れてから CD/DVD 取り出しボタンを押してください。
状態表示 LED の が点滅中に CD/DVD 取り出しボタンを押してもかまいません。

■MG70 シリーズの場合

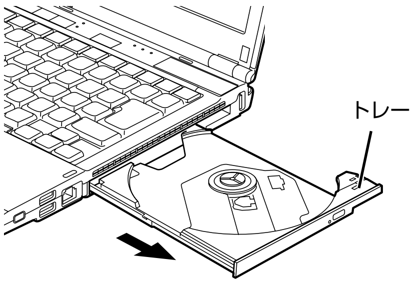


■MG50 シリーズの場合

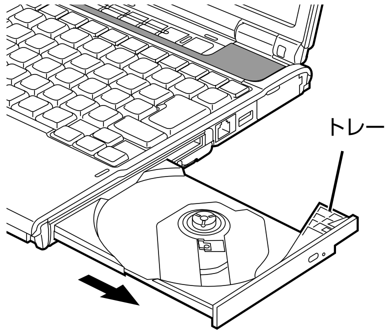


2 トレーを静かに引き出します。

■MG70 シリーズの場合



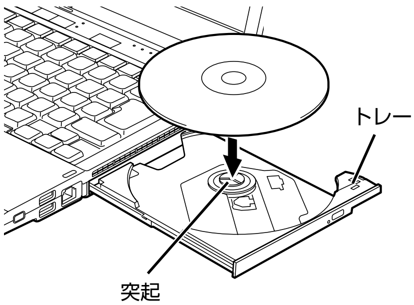
■MG50 シリーズの場合



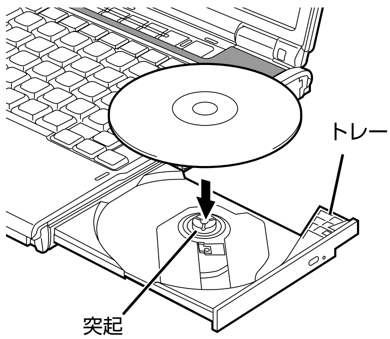
3 トレーを支えながら、ディスクをセットします。

ディスクのレーベル面を上に（両面タイプの DVD-RAM の場合は、データの読み取り／書き込みを行う面を下に）して、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとはめ込んでください。

■MG70 シリーズの場合



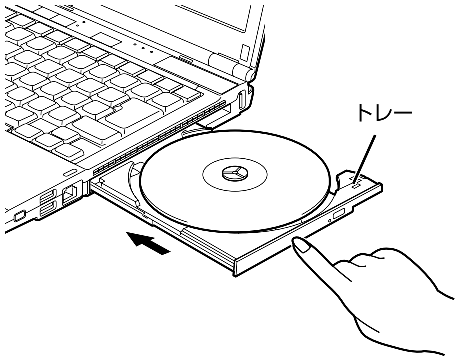
■MG50 シリーズの場合



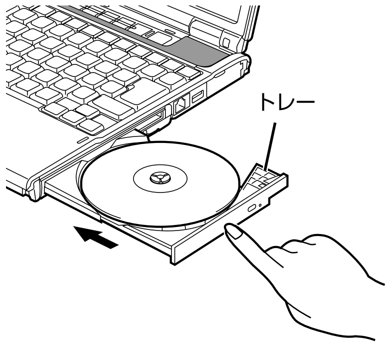
4　トレーを静かに押し込みます。

ディスクをセットしてから、パソコンで使えるようになるまで、約 10 秒かかります。

■MG70 シリーズの場合



■MG50 シリーズの場合



POINT

「自動再生」ウィンドウが表示された場合

をクリックします。



（画面は状況により異なります）

ディスクを取り出す

⚠注意

・ディスクをセットまたは取り出す場合は、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

1　ディスクを利用しているソフトウェアがあれば終了します。

次のページへ

2 CD/DVD 取り出しボタンを押します。

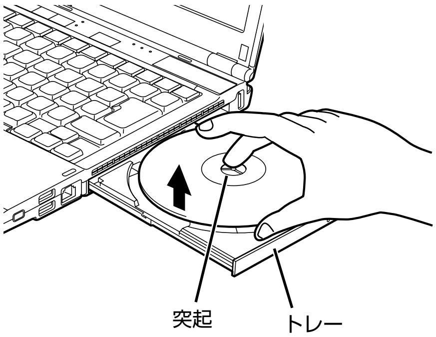
トレーが少し飛び出します。
電源が切れている場合は、電源を入れてから CD/DVD 取り出しボタンを押してください。
状態表示 LED の が点滅中に CD/DVD 取り出しボタンを押してもかまいません。

3 トレーを静かに引き出します。

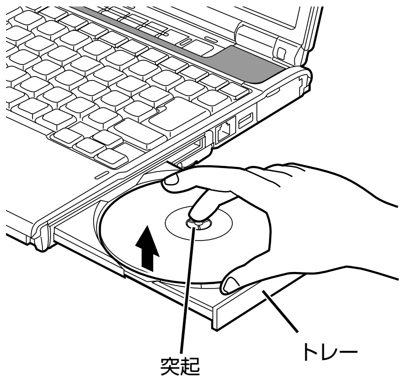
4 トレーを手で支えながらディスクを取り出します。

トレー中央の突起を押さえながら、ディスクがパソコン本体にぶつからないように、ディスクのふちを持ち上げてください。

■MG70 シリーズの場合



■MG50 シリーズの場合



5 トレーを静かに押し込みます。

ディスクが取り出せなくなった場合は、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 » 「000052」で検索
→「CD/DVD をパソコンにセットする／取り出す」→「CD/DVD が取り出せなくなったら」

このパソコンでできることのご紹介

画面で見るマニュアルでは、次のようなことを説明しています。
この他にも様々な機能がありますので、画面で見るマニュアルをご覧ください。

参照

▼ DVD を見る
▼ CD や DVD にデータを保存する
▼ CD に音楽を保存する
『画面で見るマニュアル』
→「8. 添付ソフトウェア一覧（カテゴリ別）」→「CD・DVD」
▼ 音楽 CD を聴く
『画面で見るマニュアル』
→「8. 添付ソフトウェア一覧（カテゴリ別）」→「音楽・音声」→「パソコンで音楽を楽しむ」

パソコンの取り扱い

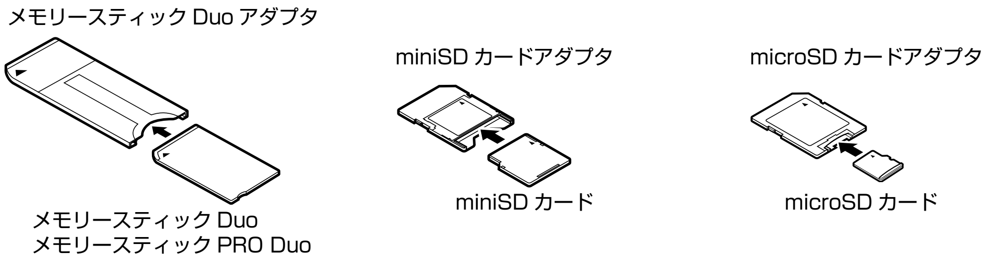
8 メモリーカードを使う

ここでは、このパソコンでお使いになれるメモリーカードの種類や、メモリーカードのセット方法、および取り出し方法について説明しています。
SD メモリーカード、メモリースティックおよび xD- ピクチャーカードを総称して、メモリーカードと呼んでいます。

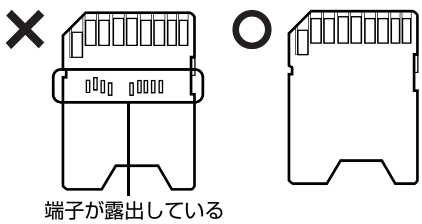
メモリーカードをお使いになる上でのご注意

メモリーカードをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo または miniSD カードや microSD カードをお使いの場合は、必ずアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。
  また、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアダプタにセットしたまま取り出してください。アダプタだけをダイレクトメモリースロットに残すと、故障の原因となります。
- メモリースティック Duo アダプタは、塗装部分が剥がれた状態では使用しないでください。ダイレクトメモリースロット内部の端子が接触し、メモリースティック Duo またはメモリースティック PRO Duo を認識しなかったり、故障の原因となります。
  また、剥がれた塗装部分などにテープなどを貼って使用することもしないでください。アダプタが取り出せなくなる場合があります。



- miniSD カードのアダプタには、裏面の中央部から端子が露出している製品がありますが、このタイプのアダプタは使用しないでください。ダイレクトメモリースロット内部の端子が接触し、故障の原因となる場合があります。
  miniSD カードのアダプタは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。



使えるメモリーカード

ダイレクトメモリースロットは、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードに直接データを読み書きするためのスロットです。
ダイレクトメモリースロットが対応しているメモリーカードは次のとおりです。

MEMORY STICK

- メモリースティック［注］
- メモリースティック
  （メモリーセレクト機能付）［注］
- メモリースティック Duo［注］
- メモリースティック PRO［注］
- メモリースティック PRO Duo［注］

- SD メモリーカード
- miniSD カード
- microSD カード
- SDHC メモリーカード

xD-Picture Card

- xD- ピクチャーカード
- xD- ピクチャーカード Type M シリーズ
- xD- ピクチャーカード Type H シリーズ

注：マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。

POINT

メモリーカードについて

- ・すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- ・マルチメディアカード、セキュアマルチメディアカードには対応していません。
- ・SD メモリーカード、miniSD カード、microSD カードは、著作権保護機能（CPRM）に対応しています。
- ・2GB を超える SD メモリーカードには対応していません。2GB を超える場合は、SDHC メモリーカードをお使いください。

メモリーカードをセットする／取り出す

注意

・メモリーカードをセットまたは取り出す場合は、ダイレクトメモリースロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

重要

メモリーカードをお使いになるときは、次の点にご注意ください

- ・メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ・メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。Windows でフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでのフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。
- ・ワンセグチューナーが内蔵されている機種の場合は、ワンセグ放送の視聴中や録画中または録画予約の待機中は、メモリーカードをセットしたり取り出したりしないでください。

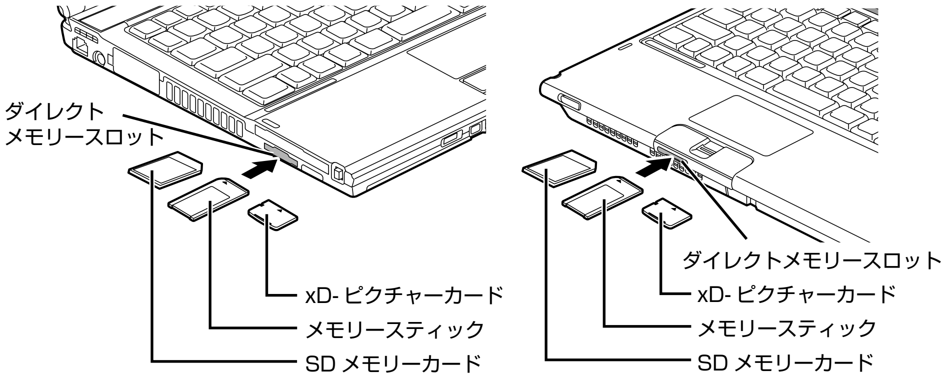
画面で見るマニュアル　添付の冊子マニュアル　▶▶▶ このマニュアルの巻頭でご案内しています。

メモリーカードをセットする

1 メモリーカードをダイレクトメモリースロットにセットします。

製品名のある面を上にして、奥までしっかりと差し込んでください。

■MG70 シリーズの場合　　■MG50 シリーズの場合



※製品名のある面を上側にして、まっすぐにセットします。
※ SD メモリーカード、メモリースティック、xD- ピクチャーカードを同時に使用することはできません。

メモリーカードを取り出す

1 画面右下の通知領域にある（ハードウェアの安全な取り外し）をクリックします。

2 「nnn を安全に取り外します」をクリックします。

nnn にはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたら、メモリーカードをパソコンから取り出します。

メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。
飛び出したメモリーカードを引き抜きます。

メモリーカードについて詳しくは次のマニュアルもご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 » 「000700」で検索
→「メモリーカードを使う」

9 パソコンの取り扱い

ワンセグ放送を見るためには

ワンセグチューナーが内蔵されている機種のみ

ここでは、ワンセグ放送についての概要や、アンテナの接続方法、ワンセグ放送を見るためのソフト「InterVideo Mobile TV」の起動方法や操作方法を説明しています。

ワンセグ放送について

ワンセグ放送とは、携帯端末向け地上デジタル放送サービスの一つで、携帯電話やノートパソコンなどの移動端末向けのサービスです。デジタルハイビジョン放送などのワンセグ以外の地上デジタル放送と比べると、画質は鮮明ではありませんが、携帯電話やノートパソコンなどでも乱れの少ない映像が受信できます。ワンセグ放送は、ワンセグ放送が開始されている地域で受信することができます。ワンセグ放送が受信可能な地域については、社団法人デジタル放送推進協会のホームページ（http://www.dpa.or.jp/）などでご確認ください。

従来のアナログ放送と比べて

ワンセグ放送は、従来のアナログ放送と比べて主に次の特長があります。

- ゴーストがなくなります。
  ワンセグ放送はデジタル放送なので、地形や建造物の反射波の影響で画像が 2 重、3 重に映ったり、揺れたりする現象（ゴースト）がありません。
- テレビで電子番組リストが見られます。
  各放送局から番組と共に送信される電子番組リストが利用できます。電子番組リストは素早く更新されるので、急な番組変更の場合も安心です。

このパソコンでできること

このパソコンに内蔵されているワンセグチューナーを使用して、次のことができます。

- 日本国内で放送している携帯端末向け地上デジタルテレビ放送の「ワンセグ」放送を視聴することができます。
- ワンセグ放送の電子番組リストを見ることができます。
- 視聴中の番組を録画することができます。
- ワンセグ放送の電子番組リストから、録画したい番組を選択するだけで、録画を予約することができます。
- データ放送を有効にすると、現在視聴している番組や放送局に関する追加情報などを表示することができます。

画面で見るマニュアル 添付の冊子マニュアル ▶▶▶ このマニュアルの巻頭でご案内しています。

重要

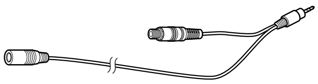
音声出力を自動切替に設定してください

ご購入時の状態では、ワンセグ放送の音声はヘッドホンでのみ聞くことができます。パソコン本体からワンセグ放送の音声を出力するために、ヘッドホン・ラインアウト／アンテナ入力／ヘッドホンアンテナ入力端子の自動判別の機能を有効にしてください。この機能を有効にすることで、接続された機器によって音声の出力先が内蔵スピーカーまたはヘッドホンに切り替わる自動切替に設定されます。
設定の変更方法については「音声出力を自動切替にする」（••▶P.54）をご覧ください。

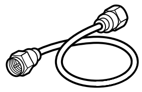
必要なものを用意する

必ず用意してください

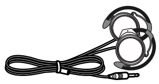
■RF 変換ケーブル（屋内でワンセグ放送を見る場合のみ）



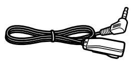
■アンテナケーブル（別売）（屋内でワンセグ放送を見る場合のみ）



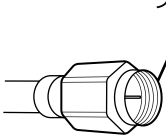
■ヘッドホン（ワンセグ放送の音声をヘッドホンで聞く場合のみ）



■ヘッドホンアンテナ（屋外でワンセグ放送を見る場合のみ）



アンテナケーブルは F 型コネクタプラグ付アンテナケーブルをご購入ください。
アンテナケーブルとパソコンの接続には、ノイズの影響を受けにくいネジ式の F 型コネクタプラグ付アンテナケーブルの使用をお勧めします。
なお、ケーブルは適切な長さのものを用意してください。



重要

ネジ式でない F 型コネクタプラグ付アンテナケーブルをお使いになる場合は、次の点にご注意ください

ネジ式でない F 型コネクタプラグ付アンテナケーブルは、ネジ式に比べノイズの影響を受けやすいため、映像がとぎれたり、乱れたりすることがあります。

必要に応じて用意してください（屋内でワンセグ放送を見る場合のみ）

アンテナの設置されている環境によっては、次のものが必要になる場合があります。用途に合った製品をご購入ください。

■ブースター

受信電波が弱い場合に電波を増幅させるための機器です。

■アッテネーター

受信電波が強すぎる場合に、電波を減衰して受信できるようにするものです。

■分波器

複数の種類の電波が 1 本のアンテナ線で配信されている場合に、それぞれの電波を分離するものです。
ワンセグ放送が BS デジタル・110 度 CS デジタル放送と同じアンテナ線で配信されている場合は、分波器を使用してワンセグ放送を分離し、接続することをお勧めします。

■地上デジタル放送専用のアンテナ

お住まいの地域によっては、地上デジタル放送専用のアンテナを設置する必要があります。

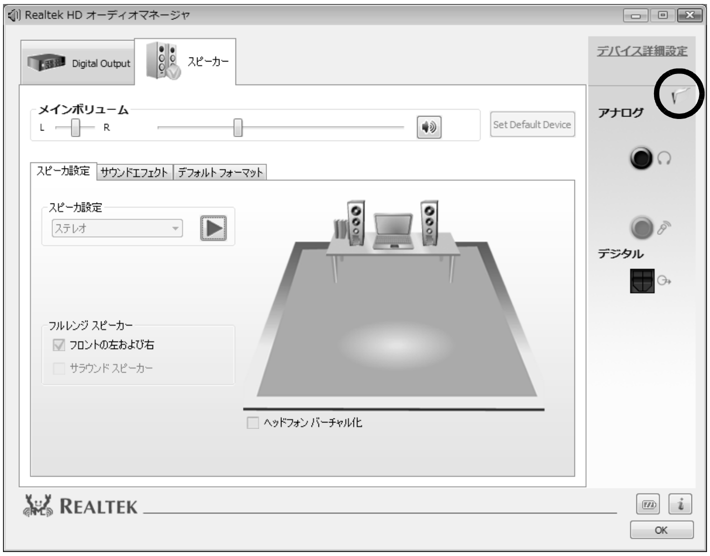
音声出力を自動切替にする

ヘッドホン・ラインアウト／アンテナ入力／ヘッドホンアンテナ入力端子は、接続された機器を判別し、音声出力をスピーカー、またはヘッドホンに自動で切り替える機能を持っています。ワンセグ放送を視聴するときは、必ずこの自動切替の設定を有効にしてください。
この設定を行うと、RF 変換ケーブルやヘッドホンアンテナを接続した時に、音声出力先が内蔵スピーカーまたはヘッドホンに自動的に切り替わります。
なお、この設定を行わない場合は、RF 変換ケーブルやヘッドホンアンテナを接続した時には、ヘッドホンからのみ音声が出力されます。

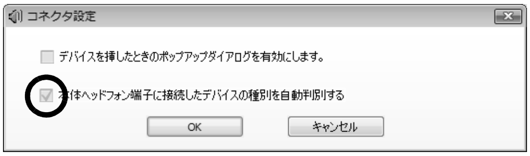
1 **画面右下の通知領域の（Realtek HD オーディオマネージャ）をダブルクリックします。**

「Realtek HD オーディオマネージャ」ウィンドウが表示されます。

2 「アナログ」の右側にある をクリックします。



3 「本体ヘッドフォン端子に接続したデバイスの種別を自動判別する」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。



4 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

アンテナを接続する

ここでは、屋内でワンセグ放送を見るために、アンテナケーブルを接続する方法について説明します。アンテナケーブルの接続はお使いの状況によって異なります。いずれかの方法でアンテナを接続してください。

ワンセグ放送を受信するには、地上デジタル放送に対応したアンテナが必要です。アンテナが地上デジタル放送に対応していない場合は、「屋外でワンセグ放送を見る場合」（••▶P.58）をご覧になり、ヘッドホンアンテナを接続してください。

⚠警告

- ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- 電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。

- 自転車やバイク、自動車などの運転中は、ワンセグ放送や音楽を視聴しないでください。周囲の音が聞こえにくく、映像や音声に気をとられ交通事故の原因になります。また、歩行中でも周囲の交通に充分に注意してください。特に踏切や横断歩道ではご注意ください。

屋内でワンセグ放送を見る場合

市販のアンテナケーブルと添付の RF 変換ケーブルを経由し、壁のアンテナコネクタに接続します。安定した画像・音声でワンセグ放送を視聴できますが、アンテナコネクタのある場所でしか視聴できません。

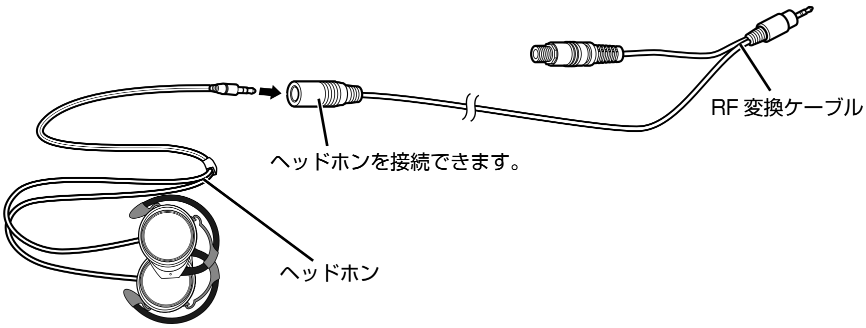
⚠警告

- 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
  落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。
  落雷による感電、火災の原因となります。

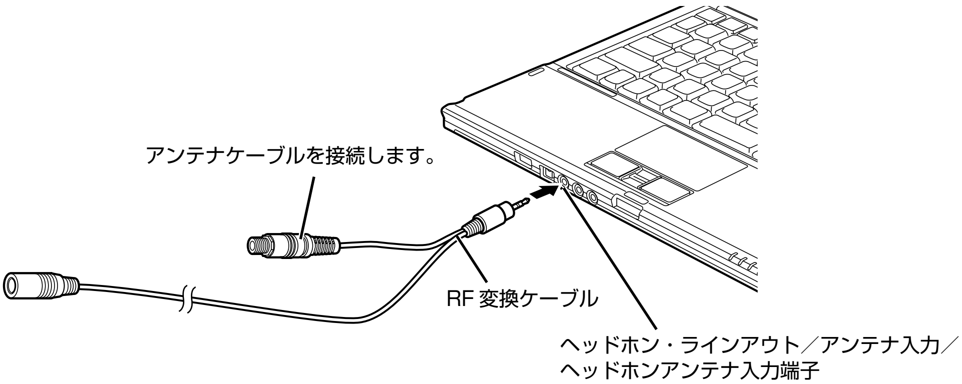
1 **パソコンの電源が入っている場合は、電源を切ります。**

2 **ヘッドホンを使用する場合は、ヘッドホンを RF 変換ケーブルのヘッドホン接続部分に接続します。**

ヘッドホンを耳に装着する方法については、「ヘッドホンの装着方法」（••▶P.59）をご覧ください。



3 **RF 変換ケーブルを、パソコン本体のヘッドホン・ラインアウト／アンテナ入力／ヘッドホンアンテナ入力端子に接続します。**

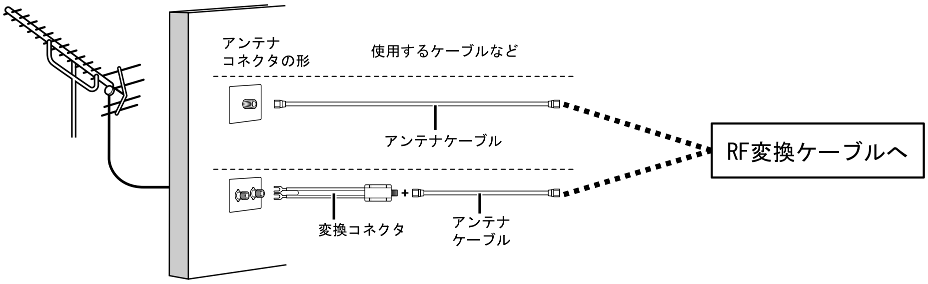


（イラストはご使用になる状況により異なります）

4 アンテナケーブルを RF 変換ケーブルに接続します。

接続のしかたは、壁のアンテナコネクタの形や、お使いになるケーブルによって異なります。次の図から最も近いものを選択し、必要なケーブル類を接続してください。
（地上デジタル放送に対応した UHF アンテナが必要です。）

地上デジタル放送に対応したアンテナ
注：地上デジタル放送以外の放送に同時に対応している場合もあります。



・ケーブルテレビをご利用中の場合
ケーブルテレビを利用している場合は、伝送方式によって、このパソコンに添付の RF 変換ケーブルを使用したワンセグ放送の受信をすることができないことがあります。伝送方式については、ご利用のケーブルテレビ会社にあらかじめご確認ください。なお、本製品は同一周波数パススルー方式（放送電波と同じチャンネルで UHF が送信される方式）にのみ対応しています。ご利用のケーブルテレビがこの方式の場合のみ、ケーブルテレビの端子にこのパソコンに添付の RF 変換ケーブルを接続してワンセグ放送を受信することができます。

・共聴施設・集合住宅におけるワンセグ放送の受信について
難視聴対策のなされている施設や、電波障害対策の共聴施設、および集合住宅における共同受信施設において、このパソコンに添付の RF 変換ケーブルを使用してワンセグ放送を受信するためには、アンテナやブースターなどの機器の再調整や、その他の機器の追加、および取り替えなどが必要になる場合があります。

屋外でワンセグ放送を見る場合

このパソコンは、内蔵ワンセグアンテナが搭載されています。パソコン本体だけでワンセグ放送を手軽に屋外で視聴することができます。
屋外の電波の弱い場所などでワンセグ放送を視聴する場合は、添付のヘッドホンアンテナを接続します。
ヘッドホンアンテナを接続すると、内蔵アンテナのみを使用する場合に比べ、より安定して視聴することができます。

重要

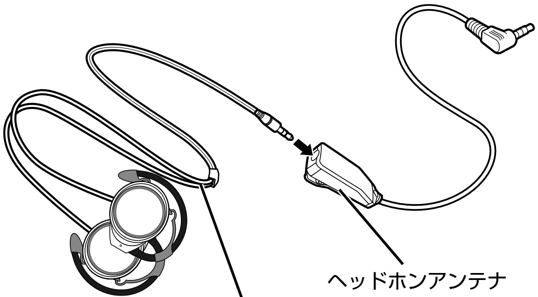
- パソコンにヘッドホンアンテナを近づけると映像や音声が止まったり、映像を見ることができない場合があります。
- 次のような電波の受信状況が悪い場所では映像や音声が止まったり、映像を見ることができない場合があります。
  - 放送局から遠い地域または極端に近い地域
  - 山間部やビルの陰
  - 移動中
  - 高圧線、ネオン、無線局の近くなど
  - 線路や交通量の多い道路の近くなど
  - 地下街、トンネルの中など
  - その他妨害電波が多かったり、電波が遮断されたりする場所など

POINT

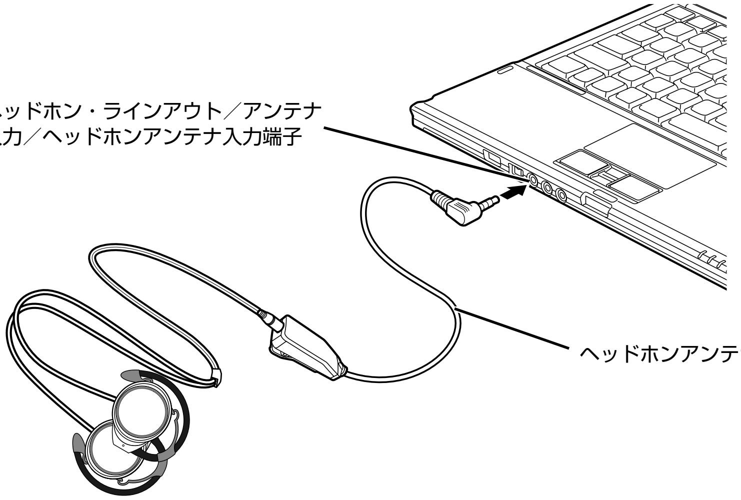
- 屋外でワンセグ放送を見る場合は、バッテリの残量が充分にあることを確認してください。
- ワンセグ放送を視聴する時はヘッドホンアンテナのコードを伸ばしてください。コードを伸ばしていないと、ワンセグ放送の電波を充分に受信できない場合があります。
- ワンセグ放送の映りが悪い場合には次の方法を試してください。
  - 見通しの良い場所に移動してみる
  - ヘッドホンアンテナやパソコンの向きを変えてみる
- ヘッドホンアンテナにヘッドホンを接続しない場合は、ヘッドホンを接続した場合に比べてテレビの映りは悪くなります。

1 ヘッドホンを使用する場合は、ヘッドホンをヘッドホンアンテナに接続します。

ヘッドホンを耳に装着する方法については、「ヘッドホンの装着方法」（••▶P.59）をご覧ください。



2 **ヘッドホンアンテナをパソコン本体に接続します。**

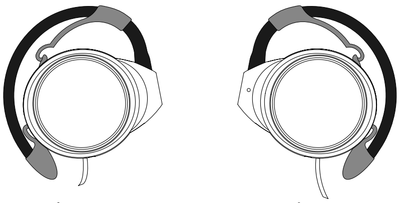


ヘッドホンの装着方法

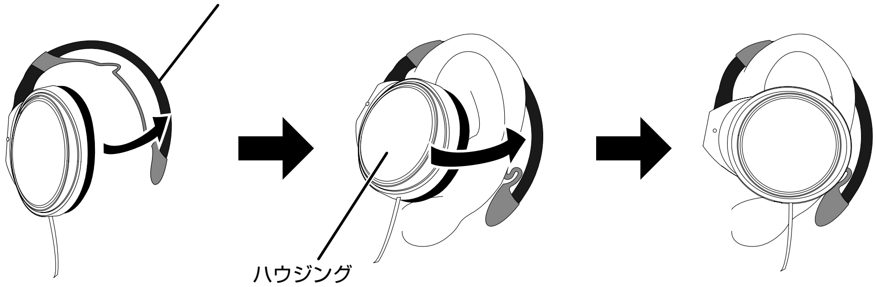
重 要

ヘッドホンは、構造上音が外にもれやすくなっています。交通機関や公共の場所では、音量を上げすぎて周囲の迷惑とならないようにご注意ください。

1 **ヘッドホンの左右を確かめます。**



2 **イヤハンガーを、止まる位置まで開いてから耳に掛け、ハウジングが耳にフィットするように、押し当てて装着します。**



視聴するエリアを選択する

「InterVideo Mobile TV」を初めて起動したときや、普段使用している場所から離れた場所（旅行先など）でワンセグ放送を視聴する場合には、視聴するエリアの選択を設定する必要があります。視聴するエリアを選択しないと、「InterVideo Mobile TV」の操作や動作が不安定になる場合があります。

1 **（スタート）→「すべてのプログラム」→「InterVideo Mobile TV」→「InterVideo Mobile TV」の順にクリックします。**

「InterVideo Mobile TV」が起動します。

2 **「地域を設定してください」という画面で「OK」をクリックします。**

一度、地域設定をした後にエリアを変更する場合は、「エリア選択」ボタンをクリックします。



3 **エリアを選択し、「適用」をクリックします。**

選択したエリアで受信可能なすべてのチャンネルが設定され、ワンセグ放送が受信できるようになります。受信するエリアが一覧に無い場合は、地域を変更してからエリアを選択してください。

・電波環境によっては、受信する場所の住所を選択するより、その付近の受信エリアを選択する方が良好に受信ができる場合があります。



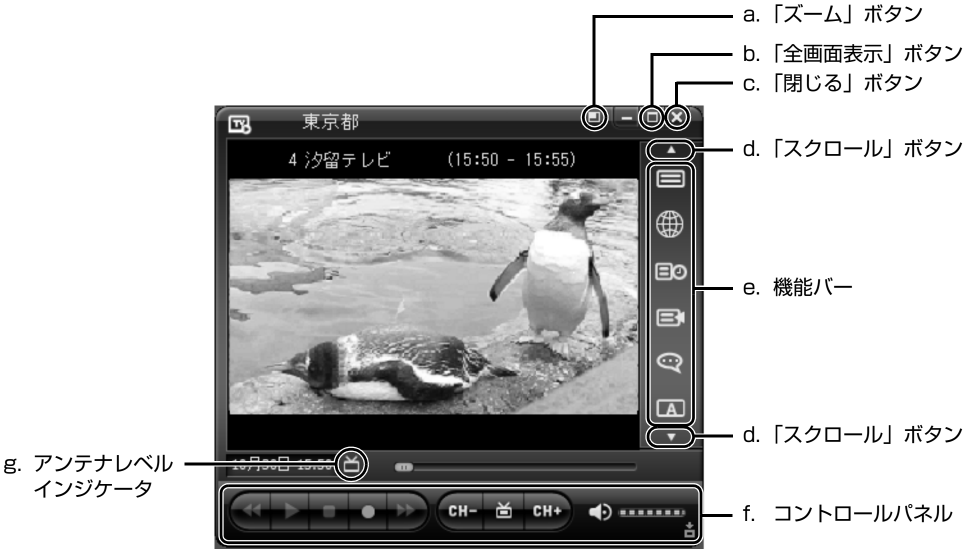
ワンセグ放送を視聴するエリアが一覧に無い場合や、一覧から選択しても受信状態が良くならない場合は、「カスタム設定」を行ってください。「カスタム設定」については、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 » 「002020」で検索
→「ワンセグ放送を見る／録る」

画面で見るマニュアル　添付の冊子マニュアル ▶▶▶ このマニュアルの巻頭でご案内しています。

「InterVideo Mobile TV」の基本操作



a.「ズーム」ボタン
画面サイズを 200%（ズーム）に拡大します。画面表示が 200%のときにクリックすると、元の表示（100%）に戻ります。

b.「全画面表示」ボタン
全画面表示にするときに押します。もとの画面サイズに戻す場合は、画面上をクリックするまたは、【Esc】を押します。

c.「閉じる」ボタン
「InterVideo Mobile TV」を終了するときに押します。

d.「スクロール」ボタン
表示されていない機能バーのメニューを表示するときに押します。

e. 機能バー
番組情報や、録画予約一覧、ヘルプなどを見るときに使います。

f. コントロールパネル



テレビ番組の録画、録画した番組の再生、早送り、早戻し、停止の操作ができます。



チャンネルを変更します。中央のボタンを押すと、「チャンネル一覧」を表示します。



音量の調整や、音量を消すことができます。

g. アンテナレベルインジケータ
受信中の放送信号の強さを表示します。表示されるアンテナの本数が多いほど、ワンセグ放送の受信状態が良好になります。

ワンセグ放送や予約録画、録画番組の再生については、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 » 「001160」で検索
→「ワンセグ放送について」

録画を予約する

「InterVideo Mobile TV」では、番組を予約して録画することができます。
ここでは、録画を予約する方法と、予約した番組を確認する手順について説明します。

重要

パソコンの日付や時刻を確認してください

番組の録画を予約するときは、パソコンの日付や時刻を確認してください。パソコンの日付や時刻が合っていないと、録画を開始したり、終了したりする時間がずれてしまい、うまく録画ができない場合があります。
パソコンの日時を変更する場合は、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「920080」で検索
→「日付や時刻を変える」

番組情報について

各チャンネルの放送波には番組情報が含まれていない場合があります。その時は番組名に何も表示されません。

1 **機能バーにある「番組情報」ボタンをクリックします。**



2 「アップデート」をクリックします。

お使いの状況で受信できる放送局の一覧の更新が始まります。
アップデートを行う前に、前回視聴したときに受信した放送局が表示されている場合がありますが、予約録画を確実に行うためには必ずアップデートを行ってください。



3 録画したい番組が放送される、放送局をクリックします。

録画予約が可能な番組の一覧が表示されます。



2

次のページへ

4 録画を予約したい番組の左にある□をクリックして、☑にします。



5 「予約」ボタンをクリックします。



6 「確認」ウィンドウで「はい」をクリックします。

選択した番組の録画予約が確定します。



7 「戻る」をクリックします。

8 「閉じる」をクリックします。

以上で、番組の録画予約が完了しました。予約した番組が録画されます。

POINT

予約した番組を確認する場合

機能バーにある「録画予約一覧」ボタンをクリックすると、録画を予約した番組の一覧が表示されます。



録画した番組を再生する

「InterVideo Mobile TV」では、視聴中の番組をリアルタイムに録画したり、特定の番組を予約録画することができます。
ここでは、録画した番組を再生する方法について説明します。

1 **機能バーにある「録画済み番組」ボタンをクリックします。**

録画済みの番組の一覧が表示されます。



2 **再生したい番組を選択し、「再生」ボタンをクリックします。**

録画した番組の再生が始まります。



ワンセグ放送について、詳しくは次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 » 「002020」で検索
→「ワンセグ放送を見る／録る」

10 指紋認証を使う

指紋認証を使うための準備をする

指紋認証とは、指紋センサーで指の指紋を読み取って行う認証のことです。
指紋認証を使うと、ユーザー名やパスワードの入力を省略し、指紋センサーに指をスライドさせるだけで次のようなことができます。

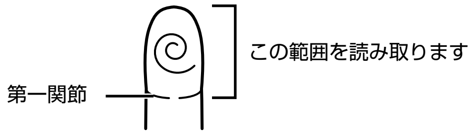
- Windows へログオンする
- ID（ユーザー名）やパスワードを必要とするホームページへログインする
- パスワードが設定されたスクリーンセーバーを解除する
- ユーザーの切り替えをする

ここでは、指紋認証を使えるようにするための初期設定について説明しています。

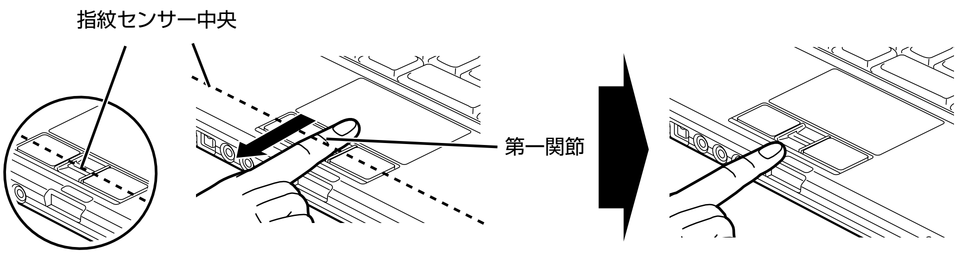
指のスライドのさせ方

指紋の登録や認証を行う場合は、次のように指をスライドさせてください。認証の失敗を減らすことができます。

1 **操作する指の第一関節が、指紋センサーの中央部に当たるように準備します。**
第一関節より先の部分が読み取り範囲となります。

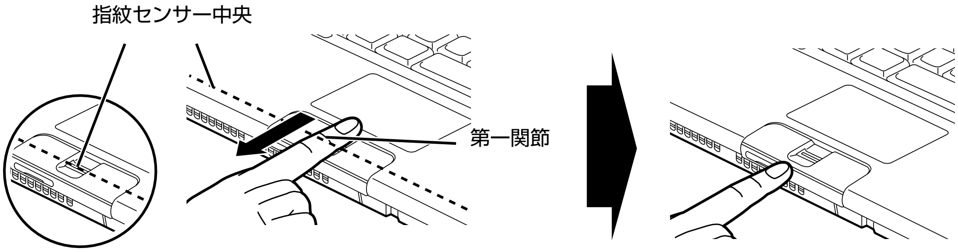


2 **指をまっすぐ伸ばして第一関節を指紋センサーに軽く当てます。手全体を手前に引くようにして、センサー部が完全に見えるまで水平にスライドさせます。**
■MG70 シリーズの場合



次のページへ

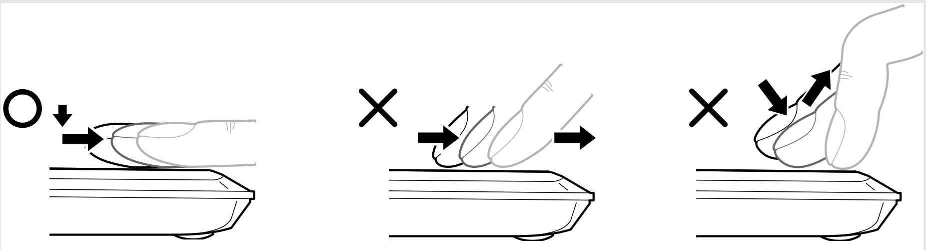
■MG50 シリーズの場合



重 要

指を突き立てたり、引っかけるようにスライドさせないでください

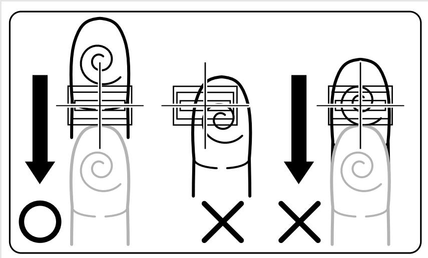
指紋センサーに指のはら（指紋の中心部）が接触していなかったり、指を引っかけるようにスライドさせると指紋の読み取りがうまくいかない場合があります。
必ず、指のはら（指紋の中心部）が指紋センサーに接触するようにスライドさせてください。



（イラストは機種や状況により異なります）

うまく認識されないときは

次の点に気を付けて操作してください。
・ 指の第一関節より先の部分が、指紋センサー上を通過するようにする
・ 指紋の渦の中心が、指紋センサーの中心を通過するようにする
・ 1 秒程度で通過するくらいの速さで、スーッと動かす



なお、親指など、指紋の渦の中心を合わせにくい指は、うまく認識できないことがあります。その際は、中心を通過させやすい指を登録してください。

指紋の読み取りがうまくいかない場合

指紋センサーに指をスライドさせるときは、必ず指紋の入力画面の表示を確認し、指紋の入力が可能な状態になってから行ってください。指紋の入力画面が表示される前から指を指紋センサーに置くと、指紋の認証に失敗する場合があります。
また、指のスライドが速すぎたり遅すぎたりした場合や、スライドの途中で指を止めたりした場合にも、正常に認識できないことがあります。画面のメッセージに従って、スライドの速さを調節してください。

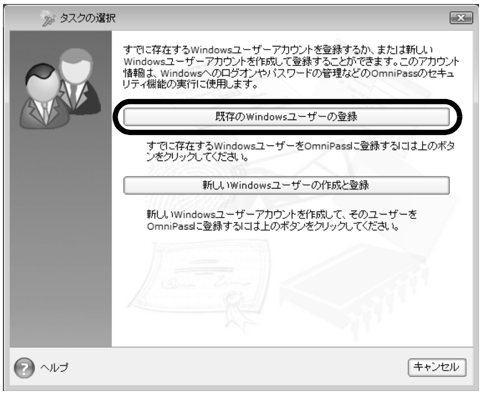
指紋を登録する

2

認証に必要な情報を登録します。

1 **（スタート）→「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass 登録ウィザード」の順にクリックします。**

2 **「既存の Windows ユーザーの登録」をクリックします。**



3 **Windows のログオンパスワードを設定している場合は、ログオンするときと同じパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、「パスワード」は空欄のまま「次へ」をクリックします。**

「ユーザー名」が Windows にログオンするときと同じことを確認してください。



次のページへ

重要

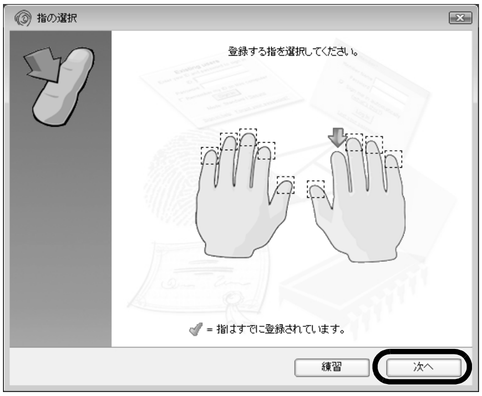
Windows のログオンパスワードを設定していない場合

セキュリティを強くするためにはWindowsのログオンパスワードもあわせて設定することをお勧めします。パスワードを設定しない場合は、誰でもそのユーザーでWindows にログオンし、個人の文書や画像などのデータファイルを開いたり削除したりできます。
Windows のログオンパスワードの設定方法については、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「202460」で検索
→「Windows のログオンパスワードを設定する」

4 認証で使用する指をイラストで選択し、「次へ」をクリックします。



POINT

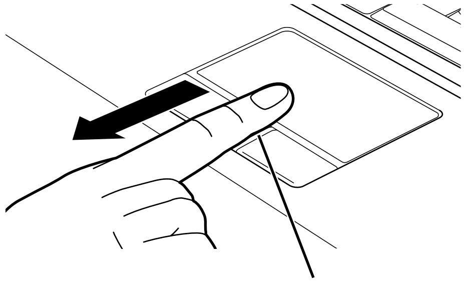
「練習」ボタンについて

この画面にある「練習」ボタンをクリックすると、指紋登録の練習をすることができます。指紋を登録する前に指紋の読み取りを練習されることをお勧めします。
ウィンドウ左上の、または「完了」ボタンをクリックすると、指紋を登録する画面に戻ります。

5 指紋の読み取りが始まります。画面の表示に従って指紋の読み取りを行ってください。

指紋が正常に読み取れた場合にはイラストが緑色に、読み取れなかった場合にはイラストが赤色に表示されます。
指紋の採取は最低 3 回行います。指紋の採取が成功した後に、確認のためにもう一度指紋センサーに指をスライドさせます。





（イラストは機種や状況により異なります）

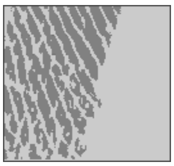
POINT

指紋は正しく登録してください

指紋の登録が正常に完了しても、指紋の読み取りが不完全なまま登録してしまうと、Windows のログオン時などの指紋認証に成功する可能性が低くなってしまう場合があります。指紋を登録するときの認証は、できるだけ次の条件を満たすように行ってください。

・ 読み取り領域の全体に指紋が読み取られている
・ 指紋の渦が画像の中に含まれている
・ 指紋の各方向の線がまんべんなく含まれている


良い例


悪い例

指紋の読み取りがうまくいかない場合

指紋センサーに指をスライドさせる方法を確認してください。スライドの方法については、「指のスライドのさせ方」（••▶P.67）をご覧ください。

6 「確認は成功しました」と表示されたら、「完了」をクリックします。

確認がうまくいかなかった場合には、ウィンドウ左上の をクリックし、もう一度指紋の読み取りを行ってください。

7 「少なくとも 2 本の指の登録が必要です。引き続き、2 本目の指を登録してください。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

手順 4 の操作に戻り、1 指目以外の指の指紋を登録してください。
指紋の追加登録は 1 つのユーザーアカウントにつき、最大 10 本まで可能です。

8 2 指目の指紋を登録したら、「完了」をクリックします。

「操作が完了するまでお待ちください」というウィンドウが表示され、登録が完了するとウィンドウが閉じます。

これで指紋の登録は完了です。

複数ユーザーで指紋認証を使う

複数のユーザーが指紋を登録して、指紋認証を使うことができます。Windows のログオンパスワードも同時に設定できます。
新しいユーザーを登録する場合は、コンピュータの管理者でログオンしている必要があります。

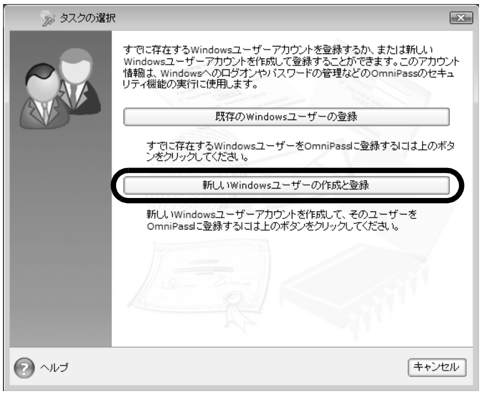
重要

1 人のユーザーが、Windows のユーザー名を複数使い分ける場合

Windows のユーザー名を複数使い分ける場合、同じ指を重複して登録すると、正しく認証されません。必ず指を変えて指紋を登録してください。

1 **(スタート)→「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass 登録ウィザード」の順にクリックします。**

2 **「新しい Windows ユーザーの作成と登録」をクリックします。**



3 **新しく追加するユーザーの名前を「ユーザー名」に、ログオンパスワードを「パスワード」および「パスワードの確認」に入力したら、アカウントの種類を選んで、「次へ」をクリックします。**

「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「続行」をクリックします。



ここで入力したユーザー名とパスワードで、新しいユーザーが追加されます。

POINT

「パスワード」の設定について

Windows のログオンパスワードを設定せずにユーザー名と指紋だけを登録して指紋認証を使用することもできます。その場合は「パスワード」および「パスワードの確認」は空欄のままで「次へ」をクリックします。
パスワードを設定しない場合は、誰でもそのユーザーで Windows にログオンし、個人の文書や画像などのデータファイルを開いたり削除したりできます。セキュリティを強くするためには Windows のログオンパスワードもあわせて設定することをお勧めします。

「アカウント」の種類について

・「管理者」
パソコンの設定を変更したり、新しいソフトウェアをインストールしたりできます。
・「標準ユーザー」
パソコンの設定の変更や、ファイルの参照、システムの重要なファイルの削除が制限されます。また、ソフトウェアのインストールや一部のソフトウェアの使用が制限されます。

4 **新しく追加したユーザー名で指紋の登録をします。**
「指紋を登録する」手順４（→P.70）に戻り、指紋の登録をしてください。

指紋認証については、次のマニュアルもご覧ください。

参照

▼ 指紋認証が使えなくなったら
『画面で見るマニュアル』 » 「000810」で検索
→「指紋認証を使う」

2

指紋認証を使う

指紋認証を使って Windows にログオンする

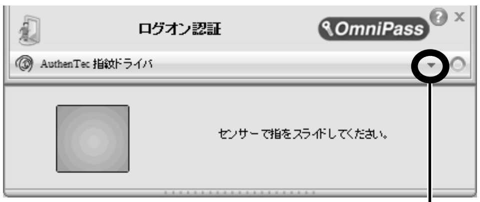
指紋認証を使うと Windows ログオンパスワードを入力する代わりに、指紋センサーに指をスライドさせるだけで Windows にログオンできるようになります。
また、複数ユーザーでパソコンを使用している場合には、ユーザー選択も省略することができます。

1　電源ボタン（⏻）を押して、Windows を起動します。

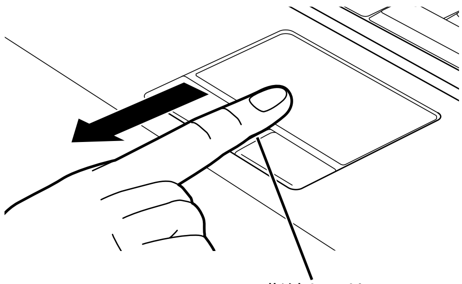
Windows が起動すると「ログオン認証」画面が表示されます。

2　指紋登録した指のいずれかを指紋センサーにスライドさせます。

指紋の認証に成功すると、Windows にログオンします。認証画面が表示されていない場合は、「ログオン認証」画面下部のプルダウンメニューから「AuthenTec 指紋ドライバ」を選択して、認証画面を表示させてください。



「ログオン認証」画面下部のプルダウンメニューから「AuthenTec 指紋ドライバ」を選択します。
また、認証ツールバーが表示されない場合は、ユーザーのアイコンをクリックするか、または「ユーザーの切り替え」ボタンをクリックしてログオン画面を切り替え、認証ツールバーを表示させてください。



指紋センサー
（イラストは機種や状況により異なります）

POINT

指紋の読み取りがうまくいかない場合

指紋センサーに指をスライドさせる方法を確認してください。スライドの方法については、「指のスライドのさせ方」（••▶P.67）をご覧ください。

指紋認証がうまくいかない場合

指を繰り返しスライドしても指紋認証に失敗する場合は、Windows のログオンパスワードを使ってログオンしてください。

指紋センサーについての注意

- 次のような場合は、故障および破損の原因となることがあります。
  - 指紋センサー表面をひっかいたり、先のとがったものでつついたりした場合
  - 指紋センサー表面を爪や硬いもので強く擦り、センサー表面にキズが入った場合
  - 泥などで汚れた手で指紋センサーに触れ、細かい異物などでセンサー表面にキズが入ったり、表面が汚れたりした場合
  - 指紋センサーのセンサー部にシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりした場合
- 次のような場合は、指紋の読み取りが困難になったり、認証率が低下したりすることがあります。指紋センサー表面はときどき清掃してください。
  - 指紋センサー表面がほこりや皮脂などで汚れている
  - 指紋センサー表面に汗などの水分が付着している
  - 指紋センサー表面が結露している
- 指紋の登録失敗や認証失敗が頻発する場合は、指紋センサー表面の清掃を行ってください。現象が改善されることがあります。
- 指紋センサーを清掃する際には、メガネ拭きなどの乾いたやわらかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。
- 指紋センサーに指を置く前に金属に手を触れるなどして、静電気を取り除いてください。静電気が故障の原因となる場合があります。冬期など乾燥する時期は特にご注意ください。
- 長期間使用することにより、センサー周辺にゴミがたまることがありますが、先のとがったもので取り除かないようにしてください。

指紋認証をお使いになる場合の注意

- 本機能は指紋画像の特徴情報を認証するものです。このため、お客様によっては指紋の特徴情報が少なく、登録操作ができない場合があります。
- 指紋の登録には同一の指で最低 3 回の読み取りが必要です。異なる指で登録を行うと、認証できない場合があります。
- 指の状態が次のような場合は、指紋の登録が困難になったり、認証率（正しく指をスライドさせた際に指紋が認証される割合）が低下することがあります。なお、手を洗う、手を拭く、認証する指を変える、手荒れや乾いている場合はクリームを塗るなど、お客様の指の状態に合わせて対処することで、認証時の状況が改善されることがあります。
  - お風呂上がりなどで指がふやけている場合
  - 指に汗や脂が多く、指紋の間が埋まっている場合
  - 手が荒れたり、指に損傷（切傷、ただれなど）を負っている場合
  - 手が極端に乾燥していたり、乾燥肌の場合
  - 指が泥や油などで汚れている場合
  - 太ったり、やせたりして指紋が変化した場合
  - 磨耗して指紋が薄くなった場合
  - 指紋登録時に比べ、指紋認証時の指の表面状態が極端に異なる場合
  - 濡れたり、汗をかいたりしている場合
- センサー表面が濡れていたり結露していたりすると、誤作動の原因となります。柔らかい布で水分を取り除いてからご使用ください。
- 認証率はお客様の使用状況により異なります。
- 各指で指紋が異なりますので、必ず登録を行った指で認証の操作を行ってください。
- 指紋が正常に読み取れなかったときや、一定時間内に認証されなかったときは、警告メッセージが表示されます。
- 指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保障するものではありません。当社では本製品を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

パソコンの取り扱い

11 LAN（有線 LAN）機能を使う

LAN（有線 LAN）機能を使うための、LAN コネクタについて説明します。
ここでは、主にインターネットに接続する場合を例に説明します。

2

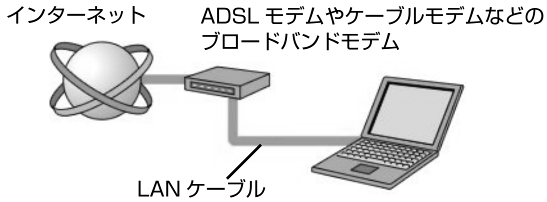
このパソコンの LAN 機能

このパソコンでは、次のものが標準で準備されています。

- LAN コネクタ（LAN ケーブル用）
  1000BASE-T/100BASE-T/10BASE-T 準拠

インターネットを使うときの接続例

次のイラストは、パソコンとブロードバンドモデムを LAN ケーブルで接続している一例です。ネットワークの形態によって使用する機器が異なりますので、ネットワークに合ったものをご購入ください。



ネットワークの種類やしくみについては、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 » 「390010」で検索
→「ネットワークの種類やしくみ」

LAN（有線 LAN）をお使いになる場合

LAN（有線 LAN）をお使いになる場合に必要なものなどを説明します。
ここでは、ブロードバンドインターネットにパソコンを接続する例を説明します。

必要なものを用意する

このパソコンの他に、次のものが必要です。

- ブロードバンドモデム
  ADSL モデム、ケーブルモデムなど、インターネットの回線や、プロバイダにより異なります。
- ルーター
  異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークの中を流れるデータをきちんと目的の場所（パソコンやプリンタなど）に届けるための機器。一般的には、LAN と外部のネットワーク（インターネット）を結ぶために使われます。
  複数台のパソコンを接続する場合は必要です。ブロードバンドモデムに内蔵されている場合もあります。
  なお、1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したものを使用してください。
- ハブ
  ネットワーク上でケーブルを中継するための機器。
  複数台のパソコンを接続する場合に必要です。ルーターに内蔵されている場合もあります。
  1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したものを使用してください。
- LAN ケーブル（ストレートタイプ）
  お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。
  1000BASE-T の通信を行うためには、エンハンストカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上の LAN ケーブルを使用してください。

LAN を使うための設定

LAN をお使いになるためには、必要な機器を LAN ケーブルで接続し、ネットワークの設定を行います。インターネットに接続する場合は、プロバイダより提供されるマニュアルに従って、機器の設定をしてください。

接続、設定の方法については、次のマニュアルでも説明しています。

参照

『画面で見るマニュアル』 »「000100」で検索
→「LAN を使う」

無線 LAN 機能を使う

無線 LAN 搭載機種のみ

無線 LAN 機能について説明します。
ここでは、主にインターネットに接続する場合を例に説明します。

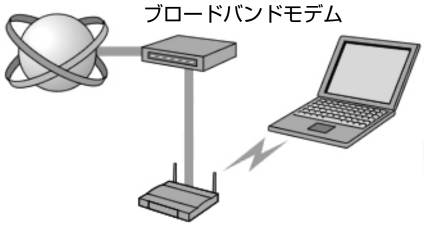
このパソコンの無線 LAN 機能

無線 LAN が搭載されている機種では、次のものが標準で準備されています。別途、無線 LAN アダプタを購入する必要はありません。

- 無線 LAN（MG70W/V, MG70W, MG70WN の場合、MG50WN で選択した場合）
  IEEE802.11a（J52/W52/W53）準拠、IEEE802.11b 準拠、IEEE802.11g 準拠（Wi-Fi® 準拠）
- 無線 LAN（MG50W の場合）
  IEEE802.11b 準拠、IEEE802.11g 準拠（Wi-Fi® 準拠）

インターネットを使うときの接続例

次のイラストは、ブロードバンドインターネットと接続している一例です。ネットワークの形態によって使用する機器が異なりますので、ネットワークに合ったものをご購入ください。



無線 LAN でインターネットに接続するには、無線 LAN アクセスポイントを利用する「インフラストラクチャ通信」という方式で通信します。
ブロードバンドモデムに電波を送受信する無線 LAN アクセスポイントを接続し、無線 LAN アクセスポイントとパソコンの間を、LAN ケーブルの代わりに電波で送受信します。

ネットワークの種類やしくみについては、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 » 「390010」で検索
→「ネットワークの種類やしくみ」

無線 LAN をお使いになる場合

必要なものを用意する

無線 LAN を使うためには、このパソコンの他に次のものが必要です。

- 無線 LAN アクセスポイント
  LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用して情報のやり取りを行う無線 LAN では、「無線 LAN アクセスポイント」と呼ばれる機器が必要となります。無線 LAN アクセスポイントには主に次のものがあります。
  - ワイヤレス LAN ステーション
  - ワイヤレスブロードバンドルーター

無線 LAN を使うための設定

無線 LAN を使うには、無線 LAN アクセスポイントとパソコンの設定を行います。
初めて設定する場合は、使用するネットワークの情報やデータの暗号化などを、無線 LAN アクセスポイントとパソコンの両方に設定します。
すでにネットワークで使われている無線 LAN アクセスポイントに接続する場合は、無線 LAN アクセスポイントと同じ設定になるように、パソコンを設定します。

無線 LAN については、次のマニュアルをご覧ください。

参照

▼ 無線 LAN の設定

『画面で見るマニュアル』 » 「001000」で検索

→「無線 LAN を使う」

▼ 別売の無線 LAN カードなどを使う

『画面で見るマニュアル』 » 「001020」で検索

→「別売の無線 LAN アダプタを使う」

ここでは、設定の流れを説明します。

1 無線 LAN の電波を発信する。

無線 LAN の電波は、停止したり発信したりすることができます。無線 LAN を使うときには、電波が発信されている必要があります。ワイヤレススイッチが ON になっていること、「Plugfree NETWORK」により電波が発信されていることを確認します。

2 無線 LAN アクセスポイントの設定をする。

無線 LAN アクセスポイントのセットアップ、SSID（または ESSID）や暗号化の設定などを行います。無線 LAN アクセスポイントに添付されているマニュアルを参照しながら設定します。

3 パソコンに無線 LAN の設定をする。

無線 LAN で通信する無線 LAN アクセスポイントとパソコンでは、同じ SSID（または ESSID）を設定します。また、セキュリティのためにデータの暗号化を設定しますが、暗号レベルは同じにする必要があります。
このパソコンでは、「Plugfree NETWORK」というユーティリティを使用して設定を行います。
設定には、無線 LAN アクセスポイントに添付されているマニュアルも参照します。

4 ネットワークに接続するための設定をする。

インターネットなどのネットワークに接続するための設定をします。
インターネットに接続する場合は、無線 LAN アクセスポイントとブロードバンドモデムを LAN ケーブルで接続し、インターネット接続を確認します。
また、必ずセキュリティ対策を行ってください。
インターネット接続を確認する場合は、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』
→「3. インターネット／ E メール」→「インターネットに接続するための設定」

作業手順や詳しい内容は、接続・設定する機器やプロバイダのマニュアルなどもあわせてご覧ください。

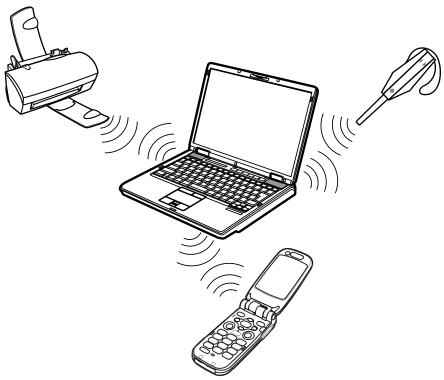
Bluetooth ワイヤレステクノロジー

Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載機種のみ

このパソコンに内蔵の Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用して、他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を接続することができます。
ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて説明しています。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットや携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。



必要なものを用意する

- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器
  Bluetooth ワイヤレステクノロジーを利用してこのパソコンと接続する機器です。Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器には次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。
  キーボード、マウス、プリンタ、ヘッドセット、携帯電話
- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアル
  お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになる場合には、次のマニュアルもご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 » 「001110」で検索
→「Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使う」

3

第 3 章

周辺機器の設置／設定／増設

周辺機器の使用上の注意やメモリの増やし方などを説明しています。目的に合わせてお読みください。

1 周辺機器をお使いになる場合

ここでは、周辺機器をお使いになる場合に知っておいていただきたいことについて説明します。

⚠警告

- 周辺機器の取り付け／取り外しを行うときは、本製品や周辺機器の電源を切った状態で行ってください。
  AC アダプタや電源コードがコンセントにつながっている場合は、それらをコンセントから抜いてください。
  感電の原因となります。

- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
  誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となります。

周辺機器とは？

プリンタ、デジタルカメラ、メモリなどの装置のことです。パソコンの各種コネクタに接続したり、パソコン本体内部に取り付けたりして、パソコンの機能を拡張したり、処理速度を高めたりできます。

周辺機器を取り付けると

メモリを取り付けてパソコンの処理能力を上げたり、プリンタを接続して印刷したりなど、パソコンでできることがさらに広がります。
また、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで、E メールに添付したりできます。

周辺機器を取り付けるには

周辺機器の取り付け方について、本マニュアル内では、「メモリの増設／交換」（→P.87）について記載しています。また、画面で見るマニュアルでも、紹介しています。
お使いになる周辺機器のマニュアルとあわせてご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』
→「5. パソコン本体の取り扱い」または「6. 周辺機器の接続」

3

「画面で見るマニュアル」で調べる

1 表示される画面の中から取り付けたい周辺機器をクリックします。

例えば、プリンタを接続する場合は、「6. 周辺機器の接続」→「プリンタを接続する」をクリックします。



POINT

手順の中に「動画を見る」というボタンがあるとき

ボタンをクリックすると、インターネットに接続して手順の動画をご覧いただけます。このとき、FMV ユーザー登録で発行された「ユーザー登録番号」と「パスワード」が必要です。ユーザー登録については、『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

周辺機器の取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**
  パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。例えば、プリンタや PC カードを使うには、取り付けた後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。周辺機器の接続は、このマニュアルをよくご覧になり、正しく行ってください。
- **ドライバなどがフロッピーディスクで添付されている場合**
  周辺機器によっては、添付のドライバなどがフロッピーディスクで提供されているものがあります。オプションの FDD ユニット（USB）をご購入になり、接続した上でドライバをインストールしてください。
- **マニュアルをご覧ください**
  ケーブル類を接続する場合は、次のマニュアルをご覧になり、接続時に間違いがないようにしてください。

  参照

  ▼ ケーブル類を接続する場合

  『画面で見るマニュアル』

  →「6. 周辺機器の接続」

  誤った接続状態で使用すると、このパソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。
  また、「画面で見るマニュアル」で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。「画面で見るマニュアル」とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。
- **純正品をお使いください**
  弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせになるか、富士通ショッピングサイト「WEB MART（ウェブマート）」（http://www.fujitsu-webmart.com/）をご覧ください。
  他社製品につきましては、このパソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- **ACPI に対応した周辺機器をお使いください**
  このパソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。
- **周辺機器の電源は、パソコンの電源を入れる前に入れてください**
  電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

重要

周辺機器を取り付ける場合

- コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1 つずつ取り付けて設定を行ってください。

2 メモリの増設／交換

パソコンに取り付けられるメモリを増やすことによって、パソコンの処理能力などを上げることができます。ここでは、メモリを増やす方法について説明します。

必要なものを用意する

メモリ（拡張 RAM（ラム）モジュール）
FMVNM51J1（512MB）、FMVNM1GJ1（1GB）のメモリが取り付けられます。
MG70W/V, MG70WN をお使いの方は、FMVNM2GJ1（2GB）のメモリも取り付けられます。

プラスのドライバー（ドライバーサイズ：1 番）
このパソコンのネジを取り外すときに使います。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズ（M2.5）に合ったものをお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。
次の表以外の組み合わせにすると、パソコンが正常に動作しない場合があります。
なお、組み合わせによってはあらかじめ取り付けられているメモリを交換したり、取り外したりする必要があります。

■ご購入時のメモリの組み合わせ

お使いの機種	総容量	スロット 1	スロット 2
MG70W/V, MG70W, MG50W MG70WN, MG50WN（1GB を選択）	1GB	512MB	512MB
MG70WN, MG50WN（2GB を選択）	2GB	1GB	1GB

■メモリの組み合わせ例

メモリを取り付けたり交換したりする場合は、下の表のように組み合わせてください。

- MG70W/V, MG70W, MG70WN の場合

総容量	スロット 1	スロット 2
1GB	512MB	512MB
	1GB	なし
1.5GB	1GB	512MB
2GB	1GB	1GB
	2GB	なし
3GB	2GB	1GB
4GB（最大）［注］	2GB	2GB

注： OS が使用可能な領域は最大 3.25GB になります。

- MG50 シリーズの場合

総容量	スロット 1	スロット2
1GB	512MB	512MB
	1GB	なし
1.5GB	1GB	512MB
2GB（最大）	1GB	1GB

POINT

次の表の組み合わせはデュアルチャネル対応です

総容量	スロット 1	スロット 2
1GB	512MB	512MB
2GB	1GB	1GB
4GB［注］	2GB	2GB

注： MG70W/V, MG70W, MG70WN のみ対応しています。

メモリ取り扱い上の注意

⚠警告

・メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタやバッテリ、周辺機器を取り外してください。スリープや休止状態では、取り付け／取り外しを行わないでください。
感電の原因となります。また、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

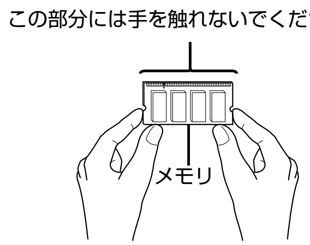
・取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

⚠注意

・メモリの取り付け位置のすぐそばに高温になる部分があります。
メモリの取り付け／取り外しを行うときは、パソコン本体の電源を切って、しばらくしてから行ってください。火傷の原因になることがあります。

メモリを取り付けるときの注意

- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- パソコンの部品など不要な物を、パソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。
- メモリは下図のようにふちを両手で持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。



3

メモリを増やす

メモリは、パソコン本体下面の拡張 RAM モジュールスロットに取り付けます。
メモリスロットにメモリを取り付ける場合と、取り付けられているメモリを交換する場合で手順が異なります。お使いのパソコンの状態を確認して、正しく行ってください。

POINT

メモリの取り付け手順の動画を見ることができます

サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）で、メモリの取り付け手順の動画がご覧になれます。

1 **パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。**

2 **液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。**

3 **内蔵バッテリパックを取り外します。**

増設用バッテリユニットを使用している場合は、取り外してください。また、内蔵バッテリの取り外し方は、「内蔵バッテリパックを交換する」（••▶P.33）をご覧ください。

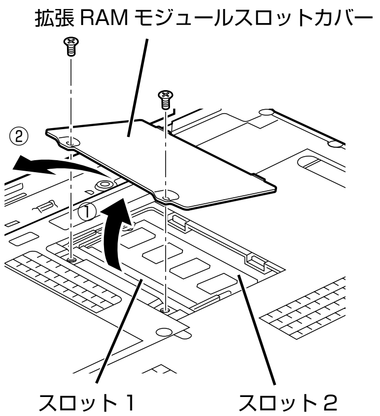
4 **メモリの組み合わせを確認します。**

メモリの組み合わせについては、「メモリの組み合わせ表」（••▶P.87）をご覧ください。

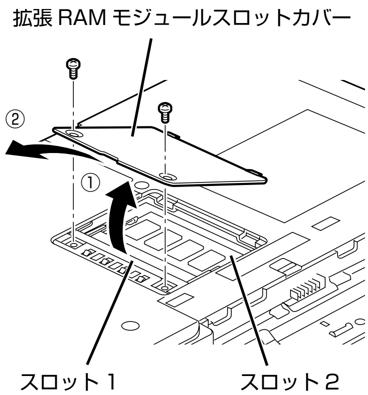
5 **ネジ（2ヶ所）を取り外し、拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り外します。**

①拡張 RAM モジュールスロットカバーを斜め上の方向に持ち上げ、②取り外します。

■MG70 シリーズの場合



■MG50 シリーズの場合

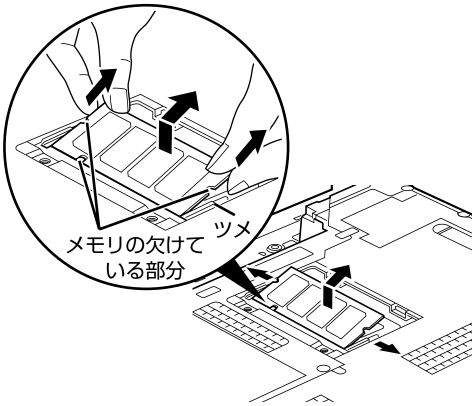


あらかじめ取り付けられているメモリを新しいメモリに交換する場合は手順 6 へ、メモリを追加する場合は手順 7 へ進んでください。

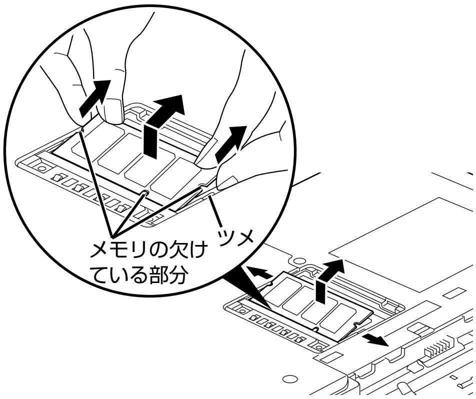
6 メモリを取り外します。

メモリを押さえている両側のツメを左右に開くと、メモリが少し斜めに持ち上がるので、両手でメモリのふちを持って斜め上の方向に引っ張り、スロットから取り外します。
スロット 2 のメモリを交換したい場合は、スロット 1 のメモリも取り外してください。

■MG70 シリーズの場合



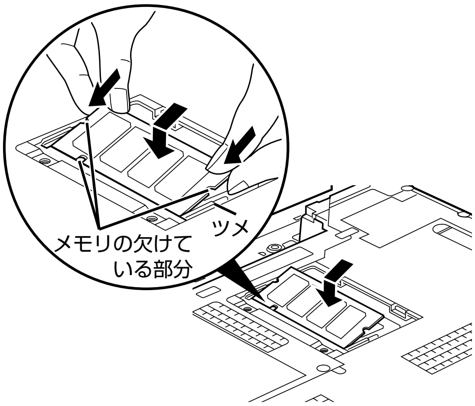
■MG50 シリーズの場合



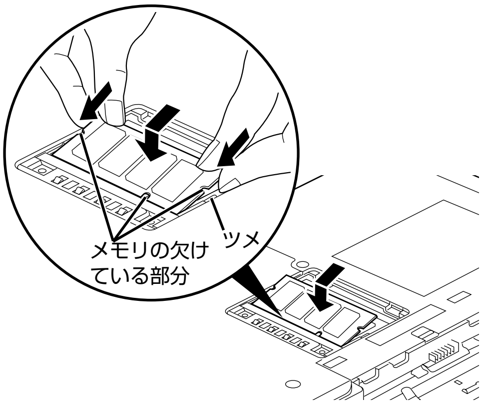
7 メモリを取り付けます。

両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分とコネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。
メモリを押さえている両側のツメが、きちんとはまったことを確認してください。
スロット 2 のメモリを取り付ける場合は、スロット 1 のメモリをあらかじめ取り外してから取り付けてください。

■MG70 シリーズの場合



■MG50 シリーズの場合



重要

メモリを取り付けるときのご注意

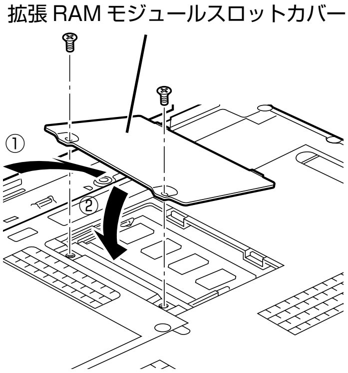
- メモリを取り付けるときは、端子や IC に触れないようにして、両手でメモリのふちを持って取り付けてください。
- メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。無理にメモリを取り付けようとすると、メモリやコネクタが破損する原因となります。

次のページへ

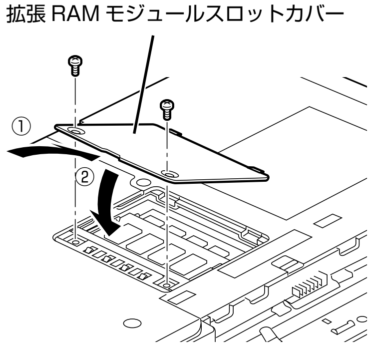
8 拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付けます。

手順 5 で外したカバーを取り付けます。

■MG70 シリーズの場合



■MG50 シリーズの場合



9 内蔵バッテリパックを取り付けます。

内蔵バッテリの取り付け方は、「内蔵バッテリパックを交換する」（••▶P.33）をご覧ください。

続いて、メモリが正しく取り付けられたか、メモリの容量を確認しましょう（••▶P.93）。

メモリ容量を確認する

1　パソコン本体の電源を入れます。

重要

画面に何も表示されないときは

メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」または「メモリエラーです。」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は電源ボタンで電源を切り、メモリを取り付け直してください。

2　（スタート）→「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3　「システムとメンテナンス」をクリックします。

4　「システム」をクリックします。

5　○で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかどうかを確認します。

メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。



メモリ容量

メモリ容量の表示はお使いのパソコンによって異なります。
このパソコンではメモリの一部をグラフィック用メモリとして使用するため、8MB 少なく表示されます。
お使いのシステム構成によってはさらに 4MB 少なく表示される場合があります。

6　ウィンドウの右上にある をクリックして、ウィンドウを閉じます。

Memo

4

第 4 章

お手入れ

1 FMV のお手入れ

ここでは、FMV を快適にお使いいただくための、日ごろのお手入れについて説明しています。

パソコン本体および添付品のお手入れ

警告

・感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
・パソコン本体の電源を切り、AC アダプタとバッテリを取り外してください。
・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

重要

キーボードのキーとキーの間のホコリなどをとる場合

- ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ホコリなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くホコリを取り除いてください。その際、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体やマウス、リモコンに水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

POINT

キートップが外れてしまった場合

次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』》「000220」で検索
→「各部の名称と働き：キーボード」→「キートップが外れてしまった場合について」

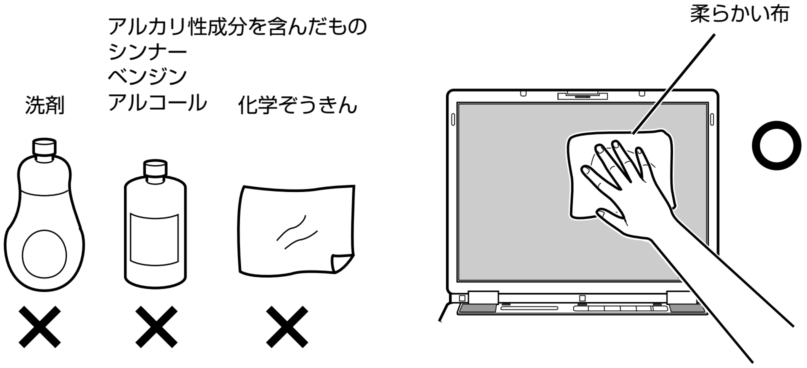
液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

重要

液晶ディスプレイのお手入れをするときは、次の点にご注意ください

- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 市販のクリーナーや化学ぞうきんを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
  - アルカリ性成分を含んだもの
  - 界面活性剤を含んだもの
  - アルコール成分を含んだもの
  - シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  - 研磨剤を含むもの



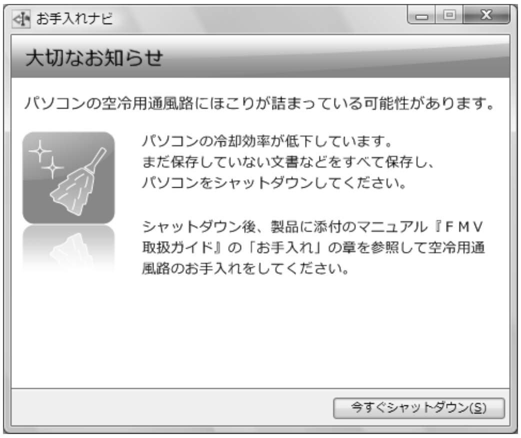
CD/DVD ドライブのお手入れ

市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、CD/DVD ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因になりますので絶対に使わないでください。
うまく読み取れない場合には、ディスクの指紋、ほこりなどの汚れを拭き取ることで改善されることがあります。拭き取り方法はディスクの種類により異なります。詳しくはディスクの説明書／レーベル等をご覧ください。

空冷用通風路のお手入れ

■MG70 シリーズの場合

このパソコンは、性能を維持するために放熱用のファンを内蔵しています。放熱用ファンは、パソコンの外と内の間に空気の流れを作ってパソコン内部を冷却しているため、ご利用の環境によってはパソコン内部に周囲のほこりを取り込んでしまうことがあります。このほこりが徐々に蓄積していくと、パソコンが本来の性能を発揮できなくなる場合があります。
このパソコンには、「お手入れナビ」というソフトウェアにより、パソコン内部の温度やパソコンの総利用時間をチェックすることによって、お手入れの時期をお知らせします。
「パソコンの空冷用通風路にほこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された場合、この後の手順に従って正しく清掃を行い、ほこりを取り除いてください。



空冷用通風路の清掃方法

重要

AC アダプタを取り外してください

感電のおそれがありますので、清掃前には必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。

充分に換気してください

清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。

次のことにご注意ください

- 洗剤は使用しないでください。
- 清掃時に破損した場合、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分ご注意ください。
- ほこりを取り除く際は、プラスチック製の楊子や歯間ブラシ等をお使いください。金属などの硬いものや、木製の折れやすいものなどを使うと故障の原因となります。

パソコン本体内部は静電気に対して弱い部品で構成されています

パソコン本体内部は、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気によって破壊される場合があります。
パソコン本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

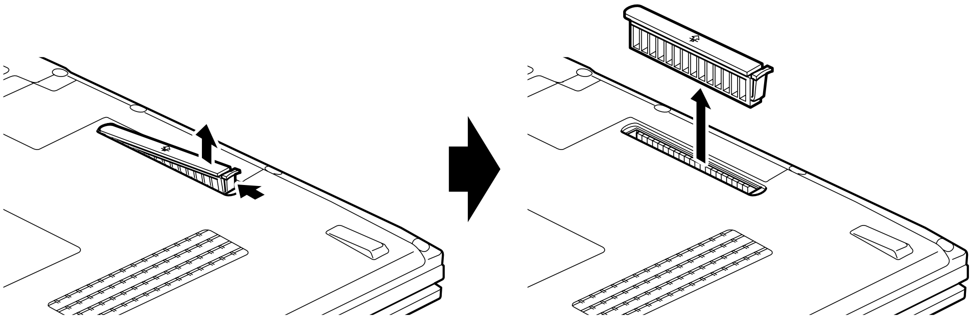
1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

液晶ディスプレイを閉じる場合は、文房具などを挟まないようにして静かに閉じてください。

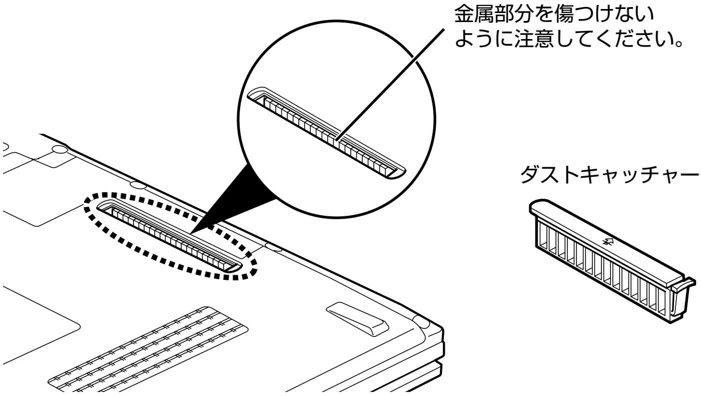
3 ダストキャッチャーを取り外します。

ツメを矢印の方向に押しながら、ダストキャッチャーを取り外します。



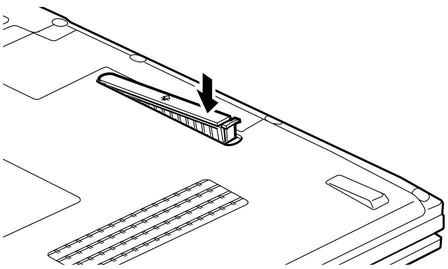
4 ダストキャッチャーと空冷用通風路を清掃します。

ダストキャッチャーと空冷用通風路のほこりを取り除いてください。



5 ダストキャッチャーを取り付けます。

ダストキャッチャーをツメのない側から差し込み、カチッと音がするまでしっかりはめこみます。



ダストキャッチャーを取り外したまま使用しないでください。

取り外したまま使用すると、故障の原因となることがあります。

POINT

定期的にメッセージが表示されるように設定することもできます

定期的なお手入れ時期のお知らせを有効／無効に変更したい場合は、(スタート)→「すべてのプログラム」→「お手入れナビ」→「お手入れナビの設定」の順にクリックします。
「お手入れナビの設定」ウインドウが表示されますので、ウィンドウの説明に従って操作してください。

5

第 5 章 仕様一覧

次の表は各機種ごとの特徴を示しています。詳しい仕様については、次ページからの仕様一覧をご覧ください。

製品名称（品名）	USB マウス（光学式）	ワンセグチューナー	無線 LAN	Bluetooth	モデム
MG70W/V	×	○	○	○	○
MG70W	×	×	○	×	○
MG70WN	△	△	○	○	○
MG50W	×	×	○	×	○
MG50WN	△	×	△	×	○

○：添付または搭載、△：機能を選択した場合に添付または搭載、×：非添付または非搭載

パソコン本体の仕様

<table>
<tr><th colspan="3">製品名称</th><th>FMV-BIBLO MG70W/V</th><th>FMV-BIBLO MG70W</th></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">CPU 注1</td><td colspan="2">インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー T7100
（インテル® Centrino® Duo モバイル・テクノロジー搭載）</td></tr>
<tr><td colspan="2">1.8GHz</td></tr>
<tr><td colspan="3">キャッシュメモリ</td><td colspan="2">1 次：32KB 命令× 2 ＋ 32KB データ× 2、2 次：2MB（CPU 内蔵）</td></tr>
<tr><td colspan="3">チップセット</td><td colspan="2">モバイル インテル® GM965 Express チップセット</td></tr>
<tr><td colspan="3">システム・バス</td><td colspan="2">800MHz</td></tr>
<tr><td colspan="3">メインメモリ</td><td colspan="2">標準 1GB（512MB × 2［デュアルチャネル対応］、PC2-5300 DDR2 SDRAM ）
ECC なし最大 4GB 注2 注3</td></tr>
<tr><td colspan="3">拡張メモリスロット</td><td colspan="2">× 2（空きスロットなし）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">表示機能</td><td colspan="2">グラフィック
アクセラレータ</td><td colspan="2">チップセットに内蔵</td></tr>
<tr><td colspan="2">ビデオメモリ</td><td colspan="2">最大 224MB（メインメモリと共有）注5</td></tr>
<tr><td colspan="2">液晶ディスプレイ注6</td><td colspan="2">高輝度・低反射 13.3 型 ワイド TFT カラー 1280 × 800 ドット
（スーパーファイン液晶）</td></tr>
<tr><td colspan="2">解像度／発色数</td><td colspan="2">液晶ディスプレイ表示：1280 × 800 ドット／ 1677 万色注7
外部ディスプレイ表示：最大 1600 × 1200 ドット／最大 1677 万色
液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示：1024 × 768 ドット／ 1677 万色注7</td></tr>
<tr><td colspan="3">フロッピーディスク
ドライブ注8</td><td colspan="2">FDD ユニット（USB）（別売）</td></tr>
<tr><td colspan="3">ハードディスクドライブ注9</td><td colspan="2">約 120GB 注12（Serial ATA/150）</td></tr>
<tr><td colspan="3">CD/DVD ドライブ 注10 注11</td><td colspan="2">スーパーマルチドライブ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">オーディオ機能</td><td colspan="2">オーディオコントローラ</td><td colspan="2">チップセット内蔵＋ High Definition Audio コーデック</td></tr>
<tr><td colspan="2">PCM 録音再生機能</td><td colspan="2">サンプリング周波数　最大 192kHz、24 ビット（再生時）注13、
サンプリング周波数　最大 48kHz、16 ビット（録音時）注13、
同時録音再生機能</td></tr>
<tr><td colspan="2">MIDI 再生機能</td><td colspan="2">OS 標準機能にてサポート</td></tr>
<tr><td colspan="2">スピーカー</td><td colspan="2">ステレオスピーカー内蔵</td></tr>
<tr><td colspan="3">キーボード</td><td colspan="2">OADG 配列準拠 86 キー（Windows キー、アプリケーションキー付）</td></tr>
<tr><td colspan="3">ポインティングデバイス</td><td colspan="2">フラットポイント</td></tr>
<tr><td colspan="3">指紋センサー</td><td colspan="2">スライド式／スクロール機能あり</td></tr>
<tr><td colspan="3">ワンタッチボタン</td><td colspan="2">プログラマブル× 4（モード切り替えボタン付）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">通信機能</td><td colspan="2">モデム</td><td colspan="2">最大 56kbps（データ、V.92 規格準拠）注14</td></tr>
<tr><td colspan="2">LAN</td><td colspan="2">1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 準拠</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無線 LAN
注15</td><td>規格</td><td colspan="2">IEEE 802.11a（J52/W52/W53）準拠、IEEE 802.11b 準拠、
IEEE 802.11g 準拠（Wi-Fi® 準拠）注16</td></tr>
<tr><td>内蔵
アンテナ</td><td colspan="2">ダイバーシティ方式</td></tr>
<tr><td colspan="2">Bluetooth ワイヤレス
テクノロジー</td><td>Bluetooth Specification Ver.2.0+EDR</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="3">ワンセグチューナー</td><td>受信チャンネル：000 － 999ch</td><td>－</td></tr>
</table>

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（▶P.110）をご覧ください。

製品名称		FMV-BIBLO MG70W/V	FMV-BIBLO MG70W
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type Ⅰ / Ⅱ × 1 スロット（CardBus 対応）	
	SD カード／メモリースティック／xD- ピクチャーカード[注17]	1 スロット（メモリースティック PRO 対応）	
	外部ディスプレイ／ビデオ出力	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン× 1 ／ S 端子変換ケーブル［FMV-NCBL3］（別売）S ビデオ（NTSC）× 1	
	USB [注18]	USB2.0 準拠× 3（右側面× 3）	
	IEEE1394（DV）[注19]	4 ピン× 1（S400）	
	モデム	RJ-11 × 1	
	LAN	RJ-45 × 1	
	オーディオ	ヘッドホン・ラインアウト兼用[注20]：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック （出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω）／ マイク・ラインイン兼用[注21]：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック （入力：100mV 以下、入力インピーダンス（AC）1.5kΩ 以上（DC）2kΩ 以上）	
	状態表示	LED	
	モバイルマルチベイ	× 1（専用コネクタ）	
電源供給方式	AC アダプタ	AC アダプタ入力 AC100V ～ 240V、出力 DC19V（4.22A）	
	バッテリ	内蔵バッテリパック：リチウムイオン、10.8V ／ 5800mAh、 増設バッテリパック（別売）：リチウムイオン、10.8V ／ 2300mAh	
バッテリ稼働時間（JEITA 測定法 1.0[注22]）	内蔵バッテリパック	約 6.5 時間	約 7.0 時間
	内蔵バッテリパック＋増設用バッテリ	約 8.7 時間	約 9.2 時間
バッテリ充電時間[注23]	内蔵バッテリパック	約 5.0 時間	
	内蔵バッテリパック＋増設用バッテリ	約 7.0 時間	
消費電力[注24]		約 20W ／約 87W	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率[注25]		I 区分 0.00024（AAA）[注26]	
外形寸法		W314.0 × D234.0 × H22.4 ～ 31.5mm （突起部含まず）	
質量	スーパーマルチドライブ非装着時	約 1.60kg	約 1.58kg
	スーパーマルチドライブ装着時	約 1.71kg	約 1.69kg
盗難防止用ロック取り付け穴		あり	
温湿度条件		温度 5 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、 温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プレインストール OS		Windows Vista Home Premium 正規版（DirectX 10 対応）	
サポート OS[注27]		Windows Vista Ultimate 正規版、Windows Vista Home Premium 正規版	

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（••▶P.110）をご覧ください。

製品名称			FMV-BIBLO MG50W
CPU 注1			インテル® Celeron® M プロセッサー 430
			1.73GHz
キャッシュメモリ			1 次：32KB 命令＋ 32KB データ、2 次：1MB（CPU 内蔵）
チップセット			モバイル インテル® 943GML Express チップセット
システム・バス			533MHz
メインメモリ			標準 1GB（512MB × 2［デュアルチャネル対応］、PC2-4200 DDR2 SDRAM） ECC なし最大 2GB 注2 注3
拡張メモリスロット			× 2（空きスロットなし）
表示機能	グラフィックアクセラレータ		チップセットに内蔵
	ビデオメモリ		最大 224MB（メインメモリと共有）注5
	液晶ディスプレイ 注6		高輝度・低反射 13.3 型 TFT カラー 1024 × 768 ドット（スーパーファイン液晶）
	解像度／発色数		液晶ディスプレイ表示：1024 × 768 ドット／ 1677 万色 注7 外部ディスプレイ表示：最大 1600 × 1200 ドット／最大 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示：1024 × 768 ドット／ 1677 万色 注7
フロッピーディスクドライブ 注8			FDD ユニット（USB）（別売）
ハードディスクドライブ 注9			約 120GB 注12（Serial ATA/150）
CD/DVD ドライブ 注10 注11			スーパー マルチドライブ
オーディオ機能	オーディオコントローラ		チップセット内蔵＋ High Definition Audio コーデック
	PCM 録音再生機能		サンプリング周波数　最大 192kHz、24 ビット（再生時）注13、 サンプリング周波数　最大 48kHz、16 ビット（録音時）注13、 同時録音再生機能
	MIDI 再生機能		OS 標準機能にてサポート
	スピーカー		ステレオスピーカー内蔵
キーボード			OADG 配列準拠 86 キー（Windows キー、アプリケーションキー付）
ポインティングデバイス			フラットポイント
指紋センサー			スライド式／スクロール機能あり
ワンタッチボタン			プログラマブル× 4（モード切り替えボタン付）
通信機能	モデム		最大 56kbps（データ、V.92 規格準拠）注14
	LAN		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 準拠
	無線 LAN 注15	規格	IEEE802.11b 準拠、IEEE802.11g 準拠（Wi-Fi® 準拠）注16
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（••▶P.110）をご覧ください。

製品名称		FMV-BIBLO MG50W
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type Ⅰ / Ⅱ × 1 スロット（CardBus 対応）
	SD カード／メモリースティック／xD- ピクチャーカード[注17]	1 スロット（メモリースティック PRO 対応）
	外部ディスプレイ／ビデオ出力	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン× 1 ／ S 端子変換ケーブル［FMV-NCBL3］（別売）S ビデオ（NTSC）× 1
	USB[注18]	USB2.0 準拠× 3（右側面× 1、背面× 2）
	IEEE1394（DV）[注19]	4 ピン× 1（S400）
	モデム	RJ-11 × 1
	LAN	RJ-45 × 1
	オーディオ	ヘッドホン・ラインアウト兼用[注20]：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック （出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω）／ マイク・ラインイン兼用[注21]：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック （入力：100mV 以下、入力インピーダンス（AC）1.5kΩ 以上（DC）2kΩ 以上）
	状態表示	LED
	モバイルマルチベイ	× 1（専用コネクタ）
電源供給方式	AC アダプタ	AC アダプタ入力 AC100V ～ 240V、出力 DC19V（3.16A）
	バッテリ	内蔵バッテリパック：リチウムイオン、10.8V ／ 5200mAh、 増設バッテリパック（別売）：リチウムイオン、10.8V ／ 3800mAh
バッテリ稼働時間（JEITA 測定法 1.0[注22]）	内蔵バッテリパック	約 3.5 時間
	内蔵バッテリパック＋増設用バッテリ	約 5.8 時間
バッテリ充電時間[注23]	内蔵バッテリパック	約 4.0 時間
	内蔵バッテリパック＋増設用バッテリ	約 6.5 時間
消費電力[注24]		約 26W ／約 68W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率[注25]		I 区分 0.0024（A）[注26]
外形寸法		W295.0 × D238.5 × H30.7 ～ 33.0mm （突起部含まず）
質量	スーパーマルチドライブ非装着時	約 1.68kg
	スーパーマルチドライブ装着時	約 1.89kg
盗難防止用ロック取り付け穴		あり
温湿度条件		温度 5 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、 温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
プレインストール OS		Windows Vista Home Premium 正規版（DirectX 10 対応）
サポート OS[注27]		Windows Vista Ultimate 正規版、Windows Vista Home Premium 正規版

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（▶P.110）をご覧ください。

製品名称			FMV-BIBLO MG70WN	
			インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー T7300 を選択した場合	**インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー T7100 を選択した場合**
CPU 注1 ★			インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー T7300（インテル® Centrino® Duo モバイル・テクノロジー搭載）	インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー T7100（インテル® Centrino® Duo モバイル・テクノロジー搭載）
			2GHz	1.8GHz
キャッシュメモリ			1 次：32KB 命令× 2 + 32KB データ× 2、2 次：4MB（CPU 内蔵）	1 次：32KB 命令× 2 + 32KB データ× 2、2 次：2MB（CPU 内蔵）
チップセット			モバイル インテル® GM965 Express チップセット	
システム・バス			800MHz	
メインメモリ★			標準 1GB（512MB × 2［デュアルチャネル対応］）／2GB（1GB × 2［デュアルチャネル対応］）（PC2-5300 DDR2 SDRAM）ECC なし最大 4GB 注2 注3	
拡張メモリスロット			× 2（空きスロットなし）注4	
表示機能	グラフィックアクセラレータ		チップセットに内蔵	
	ビデオメモリ		メインメモリ 1GB または 2GB を選択した場合：最大 224MB（メインメモリと共有）注5	
	液晶ディスプレイ注6		高輝度・低反射 13.3 型 ワイド TFT カラー 1280 × 800 ドット（スーパーファイン液晶）	
	解像度／発色数		液晶ディスプレイ表示：1024 × 768 ドット／ 1677 万色注7 外部ディスプレイ表示：最大 1600 × 1200 ドット／最大 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示：1024 × 768 ドット／ 1677 万色注7	
フロッピーディスクドライブ注8			FDD ユニット（USB）（別売）	
ハードディスクドライブ注9 ★			約 80GB ／約 100GB ／約 120GB 注12（Serial ATA/150）	
CD/DVD ドライブ 注10 注11			スーパーマルチドライブ	
オーディオ機能	オーディオコントローラ		チップセット内蔵＋ High Definition Audio コーデック	
	PCM 録音再生機能		サンプリング周波数　最大 192kHz、24 ビット（再生時）注13、サンプリング周波数　最大 48kHz、16 ビット（録音時）注13、同時録音再生機能	
	MIDI 再生機能		OS 標準機能にてサポート	
	スピーカー		ステレオスピーカー内蔵	
キーボード			OADG 配列準拠 86 キー（Windows キー、アプリケーションキー付）	
ポインティングデバイス			フラットポイント ご購入時の選択によっては、USB マウス（光学式）が添付されます。	
指紋センサー			スライド式／スクロール機能あり	
ワンタッチボタン			プログラマブル× 4（モード切り替えボタン付）	
通信機能	モデム		最大 56kbps（データ、V.92 規格準拠）注14	
	LAN		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 準拠	
	無線 LAN 注15	規格	IEEE 802.11a（J52/W52/W53）準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠（Wi-Fi® 準拠）注16	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式	
	Bluetooth ワイヤレステクノロジー		Bluetooth Specification Ver.2.0+EDR	
ワンセグチューナー★			なし／受信チャンネル：000 － 999ch	

インターネットの富士通ショッピングサイト「WEB MART（ウェブマート）」でのみご購入いただける製品の仕様です。
★　ご購入時に選択したものをご覧ください。
パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（••▶P.110）をご覧ください。

製品名称		FMV-BIBLO MG70WN	
		インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー T7300 を選択した場合	**インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー T7100 を選択した場合**
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type Ⅰ / Ⅱ × 1 スロット（CardBus 対応）	
インターフェース	SD カード／メモリースティック／xD- ピクチャーカード[注17]	1 スロット（メモリースティック PRO 対応）	
インターフェース	外部ディスプレイ／ビデオ出力	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン× 1 ／ S 端子変換ケーブル［FMV-NCBL3］（別売）S ビデオ（NTSC）× 1	
インターフェース	USB [注18]	USB2.0 準拠× 3（右側面× 3）	
インターフェース	IEEE1394（DV）[注19]	4 ピン× 1（S400）	
インターフェース	モデム	RJ-11 × 1	
インターフェース	LAN	RJ-45 × 1	
インターフェース	オーディオ	ヘッドホン・ラインアウト兼用[注20]：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック（出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω）／マイク・ラインイン兼用[注21]：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック（入力：100mV 以下、入力インピーダンス（AC）1.5kΩ 以上（DC）2kΩ 以上）	
インターフェース	状態表示	LED	
インターフェース	モバイルマルチベイ	× 1（専用コネクタ）	
電源供給方式	AC アダプタ	AC アダプタ入力 AC100V 〜 240V、出力 DC19V（4.22A）	
電源供給方式	バッテリ	内蔵バッテリパック：リチウムイオン、10.8V ／ 5800mAh、増設バッテリパック（別売）：リチウムイオン、10.8V ／ 2300mAh	
バッテリ稼働時間（JEITA 測定法 1.0[注22]）	内蔵バッテリパック	約 6.5 時間	
バッテリ稼働時間（JEITA 測定法 1.0[注22]）	内蔵バッテリパック＋増設用バッテリ	約 8.7 時間	
バッテリ充電時間[注23]	内蔵バッテリパック	約 5.0 時間	
バッテリ充電時間[注23]	内蔵バッテリパック＋増設用バッテリ	約 7.0 時間	
消費電力[注24]		約 20W ／約 87W	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率[注25]		I 区分 0.00022（AAA）[注26]	I 区分 0.00024（AAA）[注26]
外形寸法		W314.0 × D234.0 × H22.4 〜 31.5mm （突起部含まず）	
質量	スーパーマルチドライブ非装着時	ワンセグチューナーを選択した場合：約 1.60kg ／ワンセグチューナーを選択しなかった場合：約 1.59kg	
質量	スーパーマルチドライブ装着時	ワンセグチューナーを選択した場合：約 1.71kg ／ワンセグチューナーを選択しなかった場合：約 1.70kg	
盗難防止用ロック取り付け穴		あり	
温湿度条件		温度 5 〜 35 ℃／湿度 20 〜 80%RH（動作時）、温度 -10 〜 60 ℃／湿度 20 〜 80%RH（非動作時）（ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プレインストール OS		Windows Vista Home Premium 正規版（DirectX 10 対応）	
サポート OS [注27]		Windows Vista Ultimate 正規版、Windows Vista Home Premium 正規版	

インターネットの富士通ショッピングサイト「WEB MART（ウェブマート）」でのみご購入いただける製品の仕様です。
パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（••▶P.110）をご覧ください。

製品名称			FMV-BIBLO MG50WN
CPU 注1★			インテル®Celeron® M プロセッサー 430
			1.73GHz
キャッシュメモリ			1 次：32KB 命令＋ 32KB データ、2 次：1MB（CPU 内蔵）
チップセット			モバイルインテル® 943GML Express チップセット
システム・バス			533MHz
メインメモリ★			標準 1GB（512MB × 2［デュアルチャネル対応］）／ 2GB（1GB × 2［デュアルチャネル対応］）（PC2-4200 DDR2 SDRAM）ECC なし 最大 2GB 注2注3
拡張メモリスロット			× 2（空きスロットなし）注4
表示機能	グラフィックアクセラレータ		チップセットに内蔵
	ビデオメモリ		メインメモリ 1GB または 2GB を選択した場合：最大 224MB （メインメモリと共有）注5
	液晶ディスプレイ注6		高輝度・低反射 13.3 型 TFT カラー 1024 × 768 ドット（スーパーファイン液晶）
	解像度／発色数		液晶ディスプレイ表示：1024 × 768 ドット／ 1677 万色注7 外部ディスプレイ表示：最大 1600 × 1200 ドット／最大 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示：1024 × 768 ドット／ 1677 万色注7
フロッピーディスクドライブ注8			FDD ユニット（USB）（別売）
ハードディスクドライブ注9★			約 80GB ／約 100GB ／ 120GB 注12（Serial ATA/150）
CD/DVD ドライブ 注10注11			スーパーマルチドライブ
オーディオ機能	オーディオコントローラ		チップセット内蔵＋ High Definition Audio コーデック
	PCM 録音再生機能		サンプリング周波数　最大 192kHz、24 ビット（再生時）注13、 サンプリング周波数　最大 48kHz、16 ビット（録音時）注13、 同時録音再生機能
	MIDI 再生機能		OS 標準機能にてサポート
	スピーカー		ステレオスピーカー内蔵
キーボード			OADG 配列準拠 86 キー（Windows キー、アプリケーションキー付）
ポインティングデバイス			フラットポイント ご購入時の選択によっては、USB マウス（光学式）が添付されます。
指紋センサー			スライド式／スクロール機能あり
ワンタッチボタン			プログラマブル× 4（モード切り替えボタン付）
通信機能	モデム		最大 56kbps（データ、V.92 規格準拠）注14
	LAN		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 準拠
	無線 LAN 注15★	規格	なし／ IEEE 802.11a（J52/W52/W53）準拠、IEEE 802.11b 準拠、 IEEE 802.11g 準拠（Wi-Fi® 準拠）注16
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式

インターネットの富士通ショッピングサイト「WEB MART（ウェブマート）」でのみご購入いただける製品の仕様です。
★　ご購入時に選択したものをご覧ください。
パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（••▶P.110）をご覧ください。

製品名称		FMV-BIBLO MG50WN
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type Ⅰ / Ⅱ × 1 スロット（CardBus 対応）
	SD カード／メモリースティック／xD- ピクチャーカード[注17]	1 スロット（メモリースティック PRO 対応）
	外部ディスプレイ／ビデオ出力	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン× 1 ／ S 端子変換ケーブル［FMV-NCBL3］（別売）S ビデオ（NTSC）× 1
	USB [注18]	USB2.0 準拠× 3（右側面× 1、背面× 2）
	IEEE1394（DV）[注19]	4 ピン× 1（S400）
	モデム	RJ-11 × 1
	LAN	RJ-45 × 1
	オーディオ	ヘッドホン・ラインアウト兼用[注20]：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック （出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω）／ マイク・ラインイン兼用[注21]：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック （入力：100mV 以下、入力インピーダンス（AC）1.5kΩ 以上（DC）2kΩ 以上）
	状態表示	LED
	モバイルマルチベイ	× 1（専用コネクタ）
電源供給方式	AC アダプタ	AC アダプタ入力 AC100V ～ 240V、出力 DC19V（3.16A）
	バッテリ★	内蔵バッテリパック：リチウムイオン、10.8V ／ 5200mAh、 増設バッテリパック（別売）：リチウムイオン、10.8V ／ 3800mAh
バッテリ稼働時間（JEITA 測定法 1.0[注22]）	内蔵バッテリパック	約 3.5 時間
	内蔵バッテリパック＋増設用バッテリ	約 5.8 時間
バッテリ充電時間[注23]	内蔵バッテリパック	約 4.0 時間
	内蔵バッテリパック＋増設用バッテリ	約 6.5 時間
消費電力[注24]		約 26W ／約 68W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率[注25]		I 区分 0.0024（A）[注26]
外形寸法		W295.0 × D238.5 × H30.7 ～ 33.0mm （突起部含まず）
質量	スーパーマルチドライブ非装着時	約 1.68kg
	スーパーマルチドライブ装着時	約 1.89kg
盗難防止用ロック取り付け穴		あり
温湿度条件		温度 5 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、 温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
プレインストール OS		Windows Vista Home Premium 正規版（DirectX 10 対応）
サポート OS [注27]		Windows Vista Ultimate 正規版、Windows Vista Home Premium 正規版

インターネットの富士通ショッピングサイト「WEB MART（ウェブマート）」でのみご購入いただける製品の仕様です。
★　ご購入時に選択したものをご覧ください。
パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（▶P.110）をご覧ください。

仕様一覧の注記について

注 1　ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なることがあります。

注 2　PC2-5300 DDR2 SDRAM も使用できますが、PC2-4200 DDR2 SDRAM として動作します。

注 3　メモリ容量を 2GB にするには、搭載済みのメモリをすべて取り外し、1GB の拡張 RAM モジュールを 2 枚取り付ける必要があります。

注 4　ご購入時の選択によっては、空きスロットがない場合もあります。

注 5　Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）を使用しており、パソコンの動作状況によりメモリ容量が最大容量まで変化します。

注 6
- 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
- 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがありますが故障ではありません。

注 7　グラフィックアクセラレータの出力する最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。また、外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。

注 8　フロッピーディスクは、フォーマットした環境（メーカー、機種、ソフトウェア）によっては、データを読み書きできない場合があります。対応メディアは、2HD（1.44MB, 1.2MB）と 2DD（720KB）です。なお、1.44MB 以外のフォーマットはできません。

注 9　容量は、1MB=1000^2byte、1GB=1000^3byte 換算値です。

注 10　モバイルマルチベイに搭載しています。各ドライブの主な仕様は次の通りです。
なお、各数値は仕様上の最大限であり、使用メディアや動作環境によって異なる場合があります。

スーパーマルチドライブ

CD/DVD	読出速度（最大）	書込速度（最大）
CD-ROM	24 倍速	−
CD-R	24 倍速	書込 24 倍速
CD-RW	24 倍速	書換 10 倍速
DVD-ROM	8 倍速	−
DVD-RAM	5 倍速（4.7/9.4GB）	書換 5 倍速（4.7/9.4GB）
DVD-R	8 倍速	書込 8 倍速
DVD-R DL	4 倍速（8.5GB）　MG70 シリーズの場合　5 倍速	書込 4 倍速（8.5GB）
DVD-RW	6 倍速　MG70 シリーズの場合　5 倍速	書換 6 倍速
DVD+R	8 倍速	書込 8 倍速
DVD+R DL	4 倍速（8.5GB）　MG70 シリーズの場合　5 倍速	書込 4 倍速（8.5GB）
DVD+RW	8 倍速　MG70 シリーズの場合　5 倍速	書換 8 倍速

注 11　オプションで「増設用内蔵バッテリユニット」を搭載可能です。

注 12　C ドライブは Windows RE 領域に約 1GB が占有されています。そのため、「マイコンピュータ」のハードディスクの総容量は、マニュアルの記載よりも約 1GB 少なく表示されます。
なお、ハードディスクの区画の数や種別を変更したり、外付けドライブを接続した状態では、「トラブル解決ナビ」が正常に動作しなくなります。ご了承ください。

注 13　使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注 14
- 56000bps は V.92 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。V.92 の 33600bps を超える通信速度は受信時のみで、送信時は 33600bps が最高速度となります。また、日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります。
- 本モデムは、電気通信事業法による技術基準適合認定を取得しています。
回線認定番号：A05-0413001

注 15　無線 LAN の仕様については、次のマニュアルをご覧ください。
『画面で見るマニュアル』»「002000」で検索
→「無線 LAN の仕様」

注 16　Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 17
- SD メモリーカード、メモリースティックや xD- ピクチャーカードの同時使用はできません。
- すべての SD メモリーカード、メモリースティックや xD- ピクチャーカードの動作を保証するものではありません。
- メモリースティック、メモリースティック PRO、メモリースティック Duo などのメモリースティックでは、マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。
- SD メモリーカード、miniSD カード、microSD カードは、著作権保護機能（CPRM）に対応しています。
このパソコンでは「MOOCS PLAYER」や「SD-Jukebox」というソフトで SD-Audio 形式でファイルの読み書きを行うときに、SD メモリーカード、miniSD カード、microSD カードの著作権保護機能（CPRM）が有効になります。
「MOOCS PLAYER」や「SD-Jukebox」については次のページをご覧ください。
「MOOCS PLAYER」（http://moocs.com/）
「SD-Jukebox」（http://panasonic.jp/support/software/sdjb/index.html）
- マルチメディアカード（MMC）やセキュアマルチメディアカードには対応していません。

・ miniSD メモリーカード、microSD カード、メモリースティック Duo ／メモリースティック PRO Duo をお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ずアダプタにセットしてからお使いください。

・ 2GB を超える SD メモリーカードには対応していません。2GB を超える場合は、SDHC メモリーカードをお使いください。

注 18　すべての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。

注 19　すべての IEEE1394 対応周辺機器について動作保証するものではありません。

注 20　OS 上で設定を変更することにより、ラインアウト端子として使用することもできます。ラインアウト端子として使用する場合には、次の仕様となります。
（出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 10kΩ）

注 21　OS 上で設定を変更することにより、ラインイン端子として使用することもできます。ラインイン端子として使用する場合には、次の仕様となります。
（入力：100mV 以下、入力インピーダンス（AC）10kΩ 以上（DC）2kΩ 以上）

注 22　社団法人 電子情報技術産業協会の『JEITA バッテリ動作時間測定法（Ver1.0）』（http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html）。
なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。

注 23　電源 OFF またはスリープ時。なお、装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。

注 24　・動作時の最小消費電力（Windows 起動直後の消費電力）/ 最大消費電力です。また、AC アダプタ運用時の消費電力です。

・電源 OFF 時の消費電力は、約 1W 以下（満充電時）です。
なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注 25　エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を、省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

注 26　・ 2007 年度基準で表示しています。

・ カッコ内のアルファベットは「A は 100%以上 200%未満、AA は 200%以上 500%未満、AAA は 500%以上」の省エネルギー基準達成率であることを示します。

注 27　日本語 32 ビット版。

5

その他の仕様

ヘッドホンアンテナ（アンテナ部）

ワンセグチューナーが内蔵されている機種のみ

インターフェース	オーディオ	ヘッドホン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック （出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω）

RF 変換ケーブル（ヘッドホン接続部分）

ワンセグチューナーが内蔵されている機種のみ

インターフェース	オーディオ	ヘッドホン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック （出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω）

索　引

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

Memo

Memo

Memo

Memo

Memo

Memo

FMV-BIBLO MG70W/V, MG70W, MG70WN,
MG50W, MG50WN

ＦＭＶ取扱ガイド

B5FJ-3401-02-00

発 行 日　2007 年 5 月
発行責任　富士通株式会社

〒 105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター
Printed in Japan

ア 0704-1